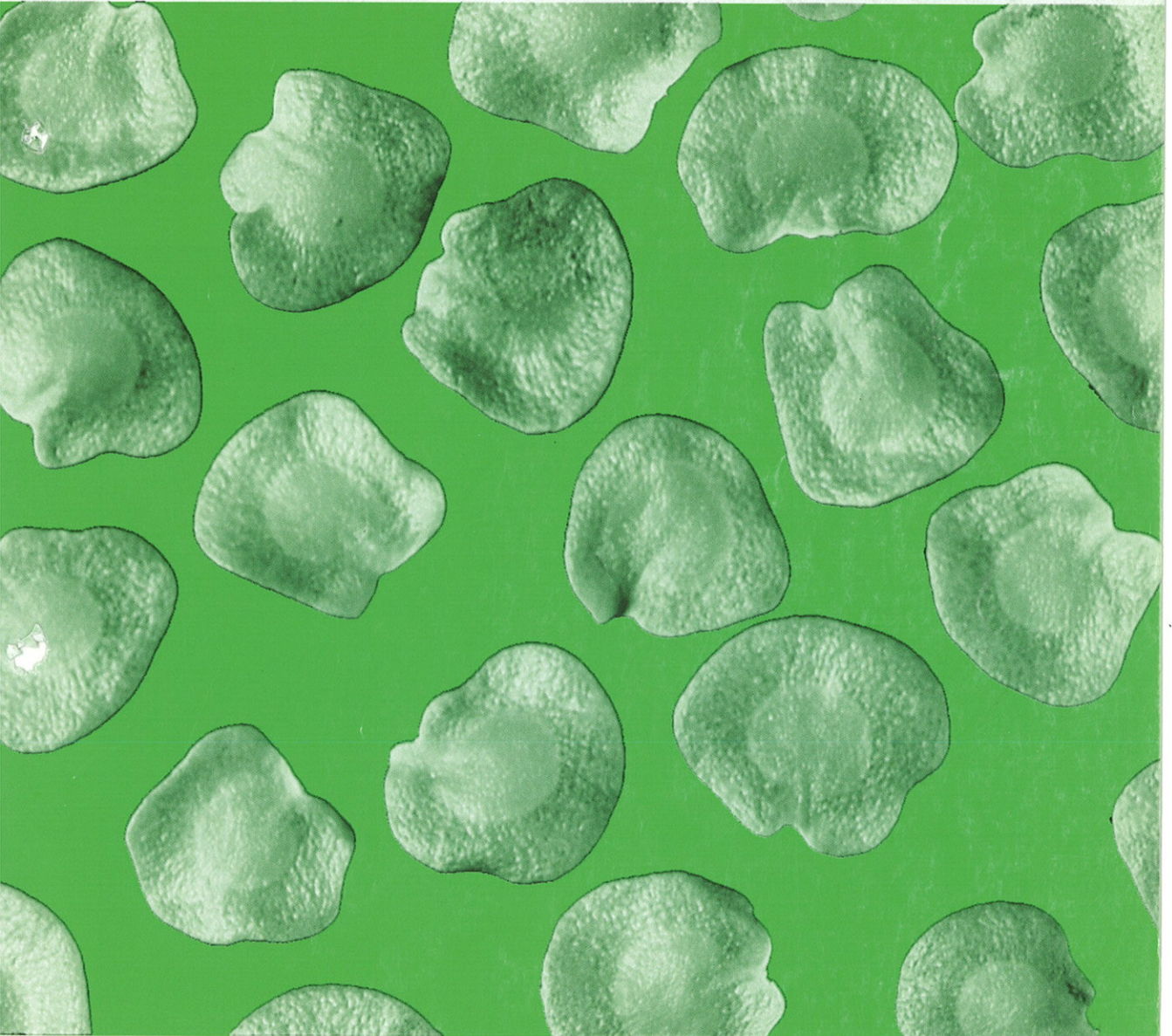


植調

第41巻第12号



キンギンナスビ (*Solanum aculeatissimum* Jacq.) 長さ5mm

財団法人 日本植物調節剤研究協会編
<http://www.japr.or.jp/>

よりよい農業生産のために。三共アグロの農薬

●SU抵抗性雑草(ホタルイ等)に3成分で効果がある
一発処理除草剤

クサトリ-DX

ジャンボ®H/L・1キロ粒剤75/51・フロアブルH/L

●効きめの長〜い
初・中期一発処理除草剤!!

ラクダー-プロ

フロアブル・Lフロアブル・1キロ粒剤75/51

●白化させて枯らす
非SU型初・中期一発剤!!

イネエース

1キロ粒剤

●がんこな草も蒼白に
初・中期一発処理除草剤!!

シロノック

1キロ粒剤75/51・H/Lフロアブル・H/Lジャンボ®

●三共アグロの優れた製剤技術から
生まれた グリホサート液剤

三共の草枯らし®

●使いやすい初期一発処理除草剤

ミスラッシャ

粒剤・1キロ粒剤

●ノビエ3.5葉期まで使える新しい中期除草剤

ザーベックス DX1

1キロ粒剤

●畦畔からの侵入雑草に効果ある中期剤

カービー

1キロ粒剤

●一成分で一掃、初期除草剤

ベクサー

フロアブル・1キロ粒剤

●時代先どり、ジャンボな省力
投げ込むだけの一発処理除草剤

クサトリエース®

Hジャンボ®・Lジャンボ®

●移植前後に使える初期除草剤

シング®乳剤

●SU抵抗性のアゼナ・ホタルイに!

クサコント

フロアブル

●最初に抑える、幅広く抑える初期除草剤

ミスウィープ®

フロアブル

●田植同時処理が可能で一発剤

クサカリテイオー

1キロ粒剤75/51・H/Lフロアブル

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。



三共アグロ株式会社

三井化学 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

詳しくは、ホームページで!

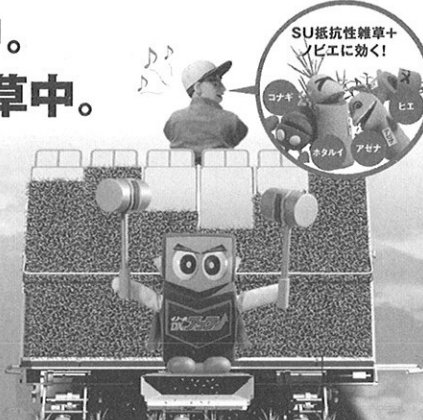
三共アグロネット会員募集中!

<http://www.sankyo-agro.com/>

サービス 1 インターネット 栽培履歴管理システム『かすが目録』
サービス 2 登録内容携帯電話チェック
サービス 3 登録情報メールサービス

無料

田植え中。
でも、除草中。



イノバ DX アップ®
1キロ粒剤

イノバDXアップなら、
田植えと同時に除草ができる。

水稲用一発処理除草剤

楽に、一発。

田植え後
散布も
できる!

SU抵抗性雑草 + ノビエに効く



Bayer CropScience

バイエルクロップサイエンス株式会社
www.bayercropscience.co.jp

： 卷 頭 言 ：



今こそ農薬の適正使用と止水管理の徹底を

全国農業協同組合連合会 肥料農薬部長 山崎周二

中国産冷凍食品食中毒事件が大きく世間を騒がせた。BSEや不正表示、賞味期限改ざんなど、食の安全に関する問題や不祥事が立て続けに発生していた状況下であっただけに、消費者の不安にさらに拍車をかける結果となったかに思える。

今回の事件は、農産物に残留していた農薬が原因ではないことは理解されたようであるが、その反面「農薬はやっぱり危険」との思いを強くさせてしまった感もある。

農薬に限らず、医薬品や食塩などどんな物質にも毒性がある。しかし、それらは毒性の強弱や特性によって使い分けられており、正しく用いることによって人間は益を得ている。このことを、消費者に正しく科学的に理解してもらうことが必要である。そして、生産者・消費者双方が納得し、かつ安心して農薬を有効活用できるようにしていかなければならない。

農薬は定められた使用基準を守ることによって残留基準を超過することなく安全に農産物を生産することができるようになっている。国産農産物の安全性を確実にものにするためには、生産者全員で農薬の適正使用に努めることが重要である。このことの実践に向け、全農では次のような主旨の啓発に取り組んでいる。

第一に、農薬のラベルをよく読むこと。希釈倍数や収穫前使用日数など遵守すべきことをまずは把握し、理解しておかなければならない。使い慣れた農薬であっても適用内容に変更がない

か常に確認するようにしたい。

第二に、ラベルに書かれていることを忠実に実行すること。これによって、安全に農薬を使用することができる。

第三に、農薬は散布する田畑の中に止め、周辺環境に出さないようにすること。特に水田では、農薬を使用した後は7日間の止水管理を徹底し、有効成分が水田の外に出ないようにする。

第四に、気配りを怠らないこと。周辺作物の状況把握、散布時の風向といった農薬の飛散防止対策や、近隣地域への連絡などに十分な気配りをすることが重要である。

第五に、散布履歴の記帳を確実に行うこと。散布履歴を確実に残すことによって、自身の使用の正しさを証明することができる。

これらの取り組みを生産者一人一人が理解し、JAや農薬関係者が生産者を支援し、共に取り組むことが必要である。

食の安全が社会問題となり、国産農産物への信頼や自給率の向上が世論となりつつある今こそ、消費者に対し、安全安心を担保するため生産者サイドがどのような努力や取り組みを行っているのかを正しく理解してもらうよい機会である。生産者も再度襟を正し、より安全・安心な農産物を提供できるよう常に努めていかなければならない。

全農は、生産者と消費者との懸け橋機能が使命と認識し、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

目 次

(第 41 卷 第 12 号)

巻 頭 言

今こそ農業の適正使用と止水管理の徹底を 1
 <全国農業協同組合連合会

肥料農業部長 山崎 周二>

有機稲作における生産性と除草問題 3
 <九州東海大学農学部応用植物科学科作物学研究室

片野 學>

小麦畑における雑草「カミツレモドキ」の除草剤による
 防除法 12

<青森県農林総合研究センター 水田利用部

伊東 秀則>

平成19年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績
 概要 17

<(財)日本植物調節剤研究協会>

平成19年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤
 試験成績概要 30

<(財)日本植物調節剤研究協会>

平成19年度草地飼料作関係除草剤・生育調節剤試験
 成績概要 55

<(財)日本植物調節剤研究協会>

—植物雑考— 58

ジャガイモは有毒植物?

<全国農村教育協会 廣田 伸七>

ジャンボ・フロアブル・1キロ粒剤 3 製剤そろった DX シリーズ

SU 抵抗性雑草に
3 成分で優れた効きめ!
フェントラサミド・プロモブチド・ペンシルプロロンメチル

水稲用 初・中期 一発処理除草剤

クサトリ-® DX

●ノビエ2.5葉期まで使えます! ●ノビエに長い残効!
 ●プロモブチド配合で、ホタルイに有効! ●低温時でも安定した効きめ!

ジャンボ H・L フロアブル H・L 1キロ粒剤 75・51

農林水産省登録 第21173号(H)・第21175号(L) 農林水産省登録 第21535号(H)・第21537号(L) 農林水産省登録 第21423号(75)・第21425号(51)



クサトリ-DX普及会 デュポン ファーム ソリューション株式会社 (事務局) 三共アグロ株式会社

有機稲作における生産性と除草問題

九州東海大学農学部応用植物科学科作物学研究室 片野 學

有機稲作：低米価時代、最後の切り札

大分県で広域普及指導員を務める仲（2007）は、2006年度、ヒノヒカリ1等の農協仮渡し価格が1俵12,000円になる中で、3～5ha規模の稲作経営における収量別損益分岐点を調査した。1俵当たりの限界米価は、反収480kgの農家で米麦二毛作の場合は12,300円、米単作の場合には15,780円、反収540kgでは、それぞれ、11,040円と14,160円と算出し、中山間地域の法人経営の深刻さを指摘した。米価が1俵1万円に近づきつつある中、麦大豆が作付けできず、米に依存せざるをえない中山間地域の水田農業に対して、減農薬の特別栽培米はすでに付加価値はなくなり、究極の高付加価値米である有機栽培米（無農薬無化学肥料栽培）に最後の活路を見いだせるのではないかと期待し、ごく一部の篤農家の努力で開発されてきた有機無農薬栽培は普及指導員、研究員、日本作物学会九州支部会会員にとって今後の重要な研究開発分野ではないかと指摘した。

有機稲作の生産性

（1）自然農法稲作に出会った頃

筆者は1980年に岩手県紫波郡紫波町で自然農法稲作に出会った。昭和55年（1980年）は全国的にも大凶作となったが、岩手県でも冷害は深刻で、県全体の水稲作況指数は60、県北や

三陸沿岸部では10以下となる市町村が続出し、戦後最悪の大凶作であった。イナワラ還元だけの自然農法イネが冷害をものともせずに見事に登熟していく姿はまさに驚きであった。しかし、有機稲作と稲作経営に関する学会報告や農林水産省による統計データは皆無に等しかった。（2）作物学の常識：化学肥料・農薬なくして作物は育たない

「化学肥料と農薬なくして作物は育つはずがない」という「作物学の常識」には以下に述べるように、それなりの根拠があった。昭和5年に試験を開始した青森県農試黒石本場のデータの内、開始43年目の昭和47年から11カ年間の㎡当たり平均玄米重は、化学肥料と堆厩肥併用区の場合には502g（対照区：100%）、化学肥料単用区では465g（93%）であったが、堆厩肥単用区で293g（58%）、自然農法稲作に最も施肥条件が近似している無施用区では233gで対照区のわずかに46%であり、収量は半作以下になっていた。

昭和57年度、農林水産省は各県の専門家に病虫害防除用農薬の供給水準を低下させた場合、作物の収量はどの程度になるかを聞き取り調査した。イネでは、農薬の通常散布を行った場合の収量を100%とした場合、供給水準を半分にすると90%、三分の一にすると85%、ゼロ、すなわち無農薬では65%となるという結果であっ

た。また、植木・松中(1983)は、イネの場合、全く除草を行わないと玄米重は、除草を行った場合に対して、移植栽培で60～80%、直播栽培では10～30%になると指摘している。

(3) 自然農法稲作収量調査結果：化学肥料・農薬なくてもイネは育つ

環境保全と人間の健康維持にとってかけがえない自然農法稲作における低収性と除草問題を解決する栽培法を明らかにするために筆者は、昭和56年度と57年度に紫波町・佐藤宏氏の自然農法水田の収量を調査した結果、作物学の常識を支えてきた上記の予想をはるかに上回る収量になっていたことを知った。

岡田茂吉・自然農法の歴史は古く、昭和10年に「無肥料栽培」として提唱され、戦後の増産時代に「自然農法」に名称変更した栽培法である。農家に普及が始まるのは昭和10年代末からである。

当時、岩手県下各地では百名を越える農家が自然農法稲作を実施しており、農家の方々の栽培の歴史と経験、結果の数々を集約すれば、自ずと解決策が見えてくるのではないかと考えた。そこで、農家自身が育てたイネの収量と収量構成要素を、農家自身で調査する「岩手県水稻坪刈調査会」を昭和58年11月に実施した。102水田における収量調査結果に基づいて、12月、「岩手県自然農法稲作検討会」を丸一日かけて、盛岡市で実施した。農家自身が主役となる調査会と検討会により解決策を明らかにしていくこの方法は、昭和60年に認可された財団法人・自然農法国際研究開発センター本部と各地区自然農法担当者、実施農家から注目され、瞬間に、東北、北陸、九州、中国、関西地区各県でも実施されるようになった。こうして、農林水産省や学会で全く把握していなかった自然農法イネの

生育の姿と栽培の実態、収量などが全国規模で明らかになってきた。

表-1は、昭和63年度(1988年度)、4地区、21県、319市町村、842農家、1126水田における収量調査結果の総括表である。筆者が最も注目したのは、自然農法イネの収量レベルである。幸い、慣行栽培に関しては農林水産省から『市町村別水陸稲収穫量』という冊子が毎年、出版されていたので、この数値を基準にし、各県と各市町村の収量に対する自然農法イネ収量比を「単収比」とした。

表-1はまた、各県における自然農法稲作の普及実態を反映している。少々乱暴な計算方法かもしれないが、各県における自然農法/統計単収比は81%～118%であり、21県全体では91%、319市町村の場合にも91%という数値が得られた。「作物学の常識」は変えなければならぬという結果が、多くの自然農法関係者自身の努力で得られたのである(片野 1990)。

(4) 農林水産省の調査結果

1989年5月、農林水産省内に「有機農業対策室」が設置され、国が有機農業に関心を示す時代が到来した。1998年度(平成10年度)、国は有機農業を含む環境保全型農業(稲作)推進農家の経営分析を全国規模で調査し、1999年3月、結果を公表した。九州地方の場合、無農薬・無化学肥料の有機栽培129農家の平均値は、慣行栽培に対して、労働時間で123%、経営費で112%、収量で84%、所得で179%に達していた。高所得要因は米60kg、1俵の代金が、慣行栽培の15,921円に対して有機栽培では71%増の27,247円(全国の平均値は28,031円)であった。

平成11年(1999年)7月、有機食品の表示等を定めたJAS法が一部改正され、農林水産大臣により認可された法人格を持つ登録認定機関

表－1 昭和63年度(1988年度)自然農法稲作収量調査結果と単収比

県名	農林水産省統計			自然農法稲作収量調査会					自然/統計単収比	
	水稻栽培市町村数	A. 単収(kg/10a)	作況指数	市町村数	農家数	調査点数	B. 単収(g/m ²)		自然/統計単収比	
									県 (B/A)	市町村平均
青森	67	485	84	20	48	58	419		86%	87%
岩手	62	435	85	38	181	198	419		96%	95%
秋田	69	545	93	22	68	95	494		91%	92%
山形	44	536	92	12	26	38	436		81%	74%
宮城	74	381	75	13	23	34	398		104%	115%
福島	89	385	76	9	52	54	456		118%	113%
新潟	111	528	100	26	37	69	468		89%	87%
富山	35	484	95	13	19	30	434		90%	88%
石川	40	493	100	21	46	55	447		91%	92%
福井	35	497	100	8	15	18	472		95%	90%
鳥取	39	492	101	9	21	29	466		95%	84%
島根	58	483	105	25	67	70	468		97%	93%
岡山	78	496	106	31	92	126	432		87%	88%
広島	83	495	103	14	42	67	423		85%	90%
山口	56	486	102	16	28	38	394		81%	80%
福岡	97	514	105	8	11	20	425		83%	84%
長崎	74	481	113	1	1	8	483		100%	100%
熊本	98	525	108	16	33	75	404		77%	83%
大分	56	468	100	8	19	21	484		103%	102%
宮崎	44	466	107	4	6	12	488		105%	120%
鹿児島	92	460	107	5	7	11	407		88%	88%
合計 平均値	1401	483	98	319	842	1126	439		91%	91%

注1) 農林水産省統計単収は玄米重、自然農法稲作単収は水田中央部連続3条×10株＝30株刈取法で得られた水分15.5%換算精玄米重を示す。

注2) 農林水産省統計単収の平均値は単純平均、自然農法21県の平均値は1126水田における平均値、各県における各市町村平均値は各市町村平均値の平均、21県における市町村平均値は319市町村の平均値である。

(現在数70)が認定した有機農産物にしか「有機」という表示ができなくなる新しい表示制度が始まり、有機表示の厳格化(通称、有機JAS)は平成13年(2001年)4月から実施された。この新制度を受けて、農林水産省は平成14年産米を対象に経営分析調査を実施し、平成16年3月、結果を公表した(表-2)。有機栽培の区分は有機JAS認定農家であり、一方、無農薬・無化学

肥料とは自称有機栽培である。最も重要な所得に着目すると、無農薬・無化学肥料はもとより、減農薬・減化学肥料など環境保全型稲作のすべての区分で慣行栽培に比べ100%を越えている点である。慣行栽培に対する米1俵60kgの販売代金は、有機JASで177%(慣行栽培は15,203円)、無農薬・無化学肥料で152%(慣行栽培は16,645円)、減農薬・減化学肥料でも113%(慣

表-2 環境保全型農業(稲作)推進農家の経営分析調査結果の概要(平成14年産,平成15年7月調査実施;農林水産省平成16年3月24日公表)

区 分	調査農家 戸数	水稲作付 総面積 (a)A	作付面積 (a)B	作付率 (B/A)	粗収益 (円)	経営費 (円)	所得 (円)	10当たり 労働時間	10a当たり 収量(kg)	60kg当たり販 売代金(円)
有機栽培(有機JAS認定農家)	73	497	168	34%	204,910	130,560	74,350	44.23	443	26,918
無農薬・無化学肥料栽培	76	270	95	35%	180,359	115,489	64,870	46.11	432	25,281
無農薬栽培	50	277	68	25%	150,744	102,456	48,288	51.98	433	21,209
無化学肥料栽培	69	250	136	55%	140,120	101,420	38,700	33.77	461	17,670
減農薬・減化学肥料栽培	82	291	221	76%	122,492	81,416	41,076	21.31	476	15,065
有機JAS/無農薬・無化学肥料栽培		184%	176%	96%	114%	113%	115%	96%	103%	106%
有機農業/慣行栽培					144%	126%	190%	161%	84%	177%
無農薬・無化学肥料栽培/慣行栽培					143%	121%	209%	166%	93%	152%
無農薬栽培/慣行栽培					128%	113%	180%	135%	91%	158%
無化学肥料栽培/慣行栽培					106%	100%	127%	124%	92%	129%
減農薬・減化学肥料栽培/慣行栽培					106%	94%	139%	101%	93%	113%
無農薬・無化学肥料栽培/慣行栽培(平成10年度・九州)					139%	112%	179%	123%	84%	171%

注:慣行栽培との対比は、有機栽培～減農薬又は減化学肥料栽培までのそれぞれの環境保全型栽培農家が、当該ほ場において農薬、化学肥料を用い、概ねその地域の一般的な方法で栽培したとした場合の経営収支、労働時間等を100とした対比である。

行栽培は13,307円)であった(片野 2005)。

以上のように、農林水産省による調査結果は、有機稲作の収量生産性は90%内外であるが、所得は顕著に高く、稲作経営としては極めて有利になっていることを明らかにした。

自然農法稲作における除草問題

(1) 熊本県阿蘇郡における調査結果:多収田＝

雑草僅少・低収田＝雑草甚大の事実

自然農法稲作栽培法確立に全精力を傾注するべく、筆者は昭和59年(1984年)3月、岩手大学から九州東海大学農学部に転勤した。昭和57年に設立された自然農法国際総合開発センター九州地区本部の協力を得て、阿蘇郡長陽村にある大学から最も近い場所で自然農法稲作を実施している農家を紹介していただくことにした。その結果、車で20分、隣接する久木野村久石で実施7年目を迎えていた帆足洋子氏と6年目の甲斐八千代氏がいることがわかり、研究室の総力をあげて調査と栽培試験を実施した。

昭和59年度の調査で最も注目した結果は、イナワラ1年間野積み堆肥単用の帆足氏5筆乾田の平均収量は533g/m²、3筆の強湿田では

283g/m²、1%レベルの顕著な有意差が見られ、雑草生育は、手押し除草器1回押しの乾田ではほとんど見られなかったが、強湿田では取れども、取れども生えてくるという状態であった(片野1986)。多収田では雑草生育は極めてわずかであり、一方、低収田では甚大という結果をどのように考察すればよいのか思案した。

(2) 生きている土

ここで登場した概念こそ「生きている土」であった。昭和59年12月、埼玉県児玉郡上里町で24年間の努力の末、独力で病害虫や雑草問題を解決し、土の偉力を発揮する自然農法栽培技術を確立していた須賀一男・サカエ夫妻の感動の記録映画『生きている土』(1984)が完成・披露された。畑に完熟堆肥(腐植層)を混入、野菜を播種・定植後、未完熟堆肥(腐葉層)と堆肥材料(落葉枝堆)による二重の被覆により森林原野生態系における土壌A₀層を再現する栽培法である。原生林などの自然生態系では雑草生育が見られないだけでなく、化学肥料も農薬なしで莫大な生産力を誇っていることは周知の事実である。自然農法の原点は、自然生態系で展開されている物質循環を農耕地生態系に再現する栽

培法であることを教えられたのである。

(3) 雑草とは何か

土壌A₀層再現のために施用される適度な粗大有機物、これらを分解し、連作障害の要因となる病原性菌類や線虫類の異常な増殖を抑制する豊かな土壌微生物群と小動物群、これらの生き物たちの生活を支える土壌団粒構造に支えられた「生きている土」では、なぜ、雑草生育が見られないのか。雑草とは、そもそも、なぜ存在するのかという疑問が登場してきた。

雑草は、野草とは異なり人間による攪乱のあるところに生育でき、人間による積極的な保護を必要としない植物群であり、現在の雑草の多くは最も大きな自然の攪乱者だった氷河が地球上を覆った氷河期に開かれた土地に出現した植物に由来すると考えられている(伊藤 1993)。

(4) ガイア仮説と雑草の出現

筆者は、1982年、イギリスの科学者、J. ラブロック博士の著書“GAIA”を入手し、地球そのものが一つの生命体であるという考え方を知っていた。生態系の肥沃な土壌に支えられた美しい緑に被われた地球、氷河は、この豊穡な緑被を根こそぎ剥ぎ取った。氷河の後には、土壌有機物を失った不毛の裸地が残された。不毛の裸地は、地球にたとえると傷口ではないか。地球が一つの生命体であれば、人間の場合と同様に傷口を癒す力を持っているのではないか。雑草とは、この傷口を癒すために、不毛な土壌環境下でも生活する能力が付与された草本であり、この草本を生み出した本源的な力こそ地球自身の生命力ではないのか。

草本の出現とその意義を論じた古生物学者・浅間(1975)によれば、新生代第三紀(6500万年前～178万年前)を通して低下し続けた気温による生育期間の短縮と乾燥化の進行により冬

が出現し、芽(茎葉分裂組織)の位置を地下に移した多年生草本と種子だけで越冬する1年生草本が登場するようになった。第四紀(178万年前～現在)の氷河時代には草本は最も適した体制と考えられる。

(5) 雑草の役割とは何か

自然農法創唱者、岡田茂吉(1982-1955)は自然農法に関する数多くの著作を遺していた。我々は、「世人は堆肥にも肥料分があるように思うが、そんな事はない。堆肥の効果は土を固めない為と、土を温める為と、今一つは作物の根際の土乾きがする場合、堆肥を相当敷いておくと、湿り気が保つという、以上三つが堆肥の効果である」(1953)に注目した。「死んだ土」とは「固く、冷たく、乾いた」土であり、逆に、「生きている土」とは「柔らかく、温かく、適度な潤いを持った」土ではないのかと理解した。「死んだ土」でも生活する能力を獲得した雑草は、根を下ろすことにより硬く締まった土を砕き、根から浸出する液体は微生物たちの栄養源となり、その遺体は土の表面を覆い、太陽の日射と雨風から土を保護し、土の中に堆積した有機物は微生物たちの栄養源を豊かにし、地温上昇をもたらし、微生物の出す粘液は土の団粒化を進め、微生物たちを捕食する土壌小動物たちもまた団粒構造発達に貢献し、微生物の活動により有機物は無機化され、植物の栄養分も増加していくであろう。この繰り返しによって、土は徐々に改良され、やがて、豊かな植物相と動物相が再構築され、地球の傷口は癒されていくのではないのか。すなわち、雑草とは「死んだ土」を再び「生きている土」に蘇らせる力を持った植物たちではないかと考えるようになったのである。従って、農耕地生態系の土が「生きている土」の見本である「自然生態系の土」になれば、雑草は生え

る必要がないから、生えてこないのではないかという仮説が誕生した。久木野村・帆足水田の結果も、土が生きている状態になっていたから、雑草生育＝僅少、収量＝多収になったのではないかと考察した。

(6) 水田の手本は河川湖沼生態系にあり

昭和58年度・岩手県自然農法稲作検討会での最大の話題は施用有機物であった。当時の自然農法の土づくりの原理は、森林原野生態系の土づくりだけであった。そのため、水田にも堆肥施用が奨励されていた。しかし、堆肥施用ではイネの初期生育は順調に進むが、生育の後半になると堆肥の養分がなくなり、秋落ち現象が顕著に現れ、難渋を極めた雑草問題は一向に改善されないという事実だった。

堆肥施用は、創唱者、岡田茂吉の提案と違うのではないかという意見が続出した。岡田(1953)は「自然肥料実施に就いて説明してみると、稲作に対しては稲藁を出来る丈細かく切り、それを土に捏ね混ぜるので、これは土を温める為である」と述べ、稲作に対してはイナワラ施用を指示していたのである。この指示は水田が手本とする生態系は森林原野ではなく、ヨシなどが旺盛に生育し、雑草生育が全く見られない河川湖沼生態系に求めるべきであるという考え方に結実した。

(7) 河川湖沼生態系におけるヨシ還元の観察

自然農法岩手県担当責任者・稲作農家、阿部福見は、溜池で生育していたヨシの生育と枯死後の土壌への還元の様相を観察していた。夏、旺盛に生育していたヨシの葉色は濃緑色であるが、秋、気温の低下とともに、葉緑素は分解し、徐々に黄色へと変色し、茶色となり、さらに冷たい北風に当たりながら茶褐色、灰色に変化していく、11月下旬の降雪以前、風によって折られた

ヨシ茎葉は次々に水面下に入る、すると、水中の微細な土壌粒子がヨシの周辺に到達し表面を覆う、これが繰り返され、ヨシ地上部はすべて水中に埋設され、ヨシと土壌粒子がサンドイッチ状になって土壌表層部が形成されること、すなわち、森林原野生態系の土壌A₀層とは全く異なっていること、翌年、ヨシの新芽が芽生えてくる5月、土壌表層部にはヨシの残骸は認められるが、数センチ下ではヨシは形をとどめず、完全に土に変化していることを発見した。

(8) 水田におけるイナワラ還元法の解明と実践

イナワラ還元こそ自然生態系に準拠した稲作栽培法であることを確信していた阿部は、昭和58年秋から新しいイナワラ還元法を水田で試験していた。注目点はコンバインで裁断したイナワラの水田への還元＝秋耕起＝時期であった。生態系でヨシが還元される時期は葉色から判断すると、茶褐色から灰色に変色した時期であり、この葉色に到達する11月中下旬までイナワラを放置し、耕起した。翌春、耕起、代掻きを繰り返し、移植、移植1～2週間後、雑草のあるなしにかかわらず1ないし2回、除草機を押した。阿部の栽培法は、都南村の佐々木政美、衣川村の三浦則昭も行っていた。

第2回目となる昭和59年度の検討会で最も注目したのは、阿部ら3名の農家の結果であった。移植以後のイネの生育は目を見張るものがあり、秋落ちもなく見事な収量を達成していたこともあったが、それ以上に、「移植1ヵ月後、例年の通り、さあ気合を入れて草取りに向かうぞと田の中に入ったら、草が無いんだ」という発言であった。我々の仮説の通り、田の土が「生きている土」に変化していたことを実証する結果が得られたのである。阿部は、「自然農法稲作栽培暦」と「ワラ変色板」も作成していた。イナワラ還元

による新しい田づくり技術は、その後、瞬く間に岩手県下、東北各県の農家に普及し、各地で大きな成果をあげていった。

(9) 「生きている」水田土壌断面構造の発見

昭和62年5月、阿部は自宅付近、ヨシ生育が見られる灌漑水路の狭い裸地にイネ苗を移植した。雑草生育は全く無く、イネ生育はヨシ同様に莫大であった。9月、筆者は阿部とともにこの地を訪れ、土壌断面を観察した。その結果、図-1に示したとおり、土壌表面から深さ5cmまでは粘土からなる粒子の細かい土壌層、その下層には砂と壤土とが入り混ざった層が10~15cm続き、さらに下層は礫だらけになっていることを発見した。この断面構造は、表層数ミリの酸化層と犁床まで続く還元層からなるという水田

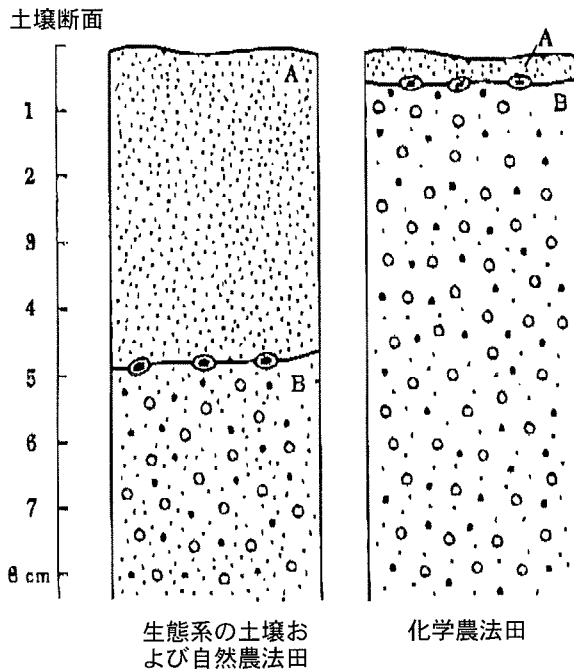
土壌学で示されてきた教科書的知見とは全く異なっていた。この二層構造は、阿部、佐藤、三浦の水田でも確認され、筆者は「微粒子層」と「ボソボソ層」と命名した。

(10) 雑草が生育しない要因の解明

トロトロ味を帯びた「微粒子層」の厚さは、水田によって異なり3~8cmに及んでいた。阿部らは、収量調査を行っていた水田の「微粒子層」の厚さも同時に測定し、収量との関係を明らかにしようとしていた。この調査の過程で、二層の境界部に多数の雑草種子が存在することを発見し、雑草種子の発芽が物理的に抑制されていることが明らかになった。「微粒子層」は、その後、「トロトロ層」と呼ばれるようになった。

以上の経過は、筆者の著書(1990)に詳述さ

図-1 生態系の土、自然農法田と化学農法田の土壌断面(収穫後)の模式図



れているので参照されたい。

有機稲作におけるその後の除草対策

(1) 昭和62年度(1987年度)、黒ビニールマルチ栽培の普及

鳥取大学農学部、津野幸人教授は、水田に黒ビニールを敷設しながら、事前に空けておいた植え穴にイネ苗を移植する栽培法を考案し、昭和62年度から島根県を中心に普及が始まった。雑草生育が完璧に抑えられ、地温の顕著な上昇による分げつ発生も良好となり、結果として多収が達成されることがわかった。この方法は、その後、黒ビニールから生分解性紙マルチに代わった(片野 1990)。

(2) 昭和63年度(1988年度)、ジャンボタニシによる除草効果発見

熊本県八代市で雑草と苦闘していた自然農法実施農家、遠山秀一と稲本薫は、昭和63年度、移植後の湛水状態によって雑草生育が異なることに気付き、その相違が、食用として南米から輸入され、水田地帯に生息域を拡大し、イネを食害していたスクミリングガイ(通称、ジャンボタニシ)が雑草を食べていたことによるものであること、水深を変更することでこの貝の行動を制御でき、除草効果が絶大であることを発見した。その後、この効果は、平成3年度、福岡県農総試(1992)の栽培試験でも確認された。お金のかからないこの方法は九州平野部における除草法として広く普及している。

(3) 平成元年度(1989年度)、大潟村農協における乗用動力6条除草機の開発と普及

機械的除草は手取り、雁爪、歩行型手押し1条ないし2条除草器(田打ち車)と歩行型動力2条ないし3条除草機が普及していたが、いずれも重労働である。平成元年春、筆者は大潟村役場

主催講演会に招かれ「自然農法稲作」の講演を行った。参加者の主力は新創有機米研究会会員農家であり、大潟村の生命線である八郎湖の水質汚染を軽減することを会の目標にしており、除草剤は散布しない研究会であった。1筆の面積が125aを標準とする水田を相手に、研究会では農協機械課と共同で除草機の開発を進め、昭和63年度時点で、乗用動力6条除草機の開発が終了し、1haに要する除草時間も1時間内外であった。平成元年度から100名を越える会員が自然農法稲作に取り組み大きな成果を挙げた。

(4) 平成2年度(1990年度)、合鴨サミット開催

福岡県嘉穂郡桂川町で完全有機無農薬有機農業を行い、それまでの10年間、水田であらゆる除草法を試していた古野隆雄は、1988年2月、自然農法福岡県担当責任者、稲作農家、栄光1号育成者である野見山末光から富山県・自然農法稲作実施農家、置田敏雄が実践していた「合鴨除草法」のメモを入手し、1988年度、4週齢の合鴨ヒナを水田に放した結果、嘘のように水田の雑草が消えていったことに瞠目した。放した合鴨は、8月、野犬の襲撃を受け全滅するが、1990年、電気柵の採用により問題を解決した。その後、1990年、雑誌『現代農業』に「合鴨水稻同時作」連載開始、1991年2月、桂川町で第1回合鴨サミット開催、1992年12月、単行本『合鴨ばんざい』出版など現在に至るまでに、この理論と技術はアジア各国に急速に普及している(古野 2007)。

(5) 平成11年度(1999年度)、『除草剤を使わないイネづくり』出版

栃木県で30年間、農業高校で教鞭をとり、成苗二本植え研究会を組織していた稲葉光國は、平成9年(1997年)、特定非営利活動法人・民間稲作研究所を栃木県河内郡上三川町で発足、

付属農場 50a 開設・有機稲作の基礎研究を開始した。この研究所が編集した『除草剤を使わないイネづくり』が1999年10月に出版、20種類の抑草法を紹介した。有機稲作最大の障壁であった除草問題は、地域、経営規模、農家の人柄や趣味など多種多様な条件に応じて解決することが可能である時代が到来した。

引用文献

- 浅間一男 (1975) 植物の進化生物学—第四巻 被子植物の起源. 三省堂. 333-341.
- 福岡県農総試 作物栽培研究室 (1992) スクミリングガイ利用による水田雑草の生物的防除法 (1) 浅水管理期間, 貝の密度と苗の被害及び除草効果 (2) 現地実証. 平成3年度九州地域試験研究成績・計画概要集—農産・水稻—. 九州農業試験場編: 11-213, 11-214.
- 古野隆雄 (2007) アジアの伝統的アヒル水田放飼農法と合鴨水稻同時作に関する農法論的比較研究—囲い込みの意義に焦点を当てて—. 九州大学大学院・博士論文. 1-122.
- 伊藤操子 (1993) 雑草学総論. 養賢堂. 13-19.
- Lovelock, James (1979) Gaia: A New Look at Life on Earth, 3rd ed., Oxford University Press.
- 片野 学 (1986) 自然農法水田における水稻栽培に関する研究 VIII. 湿田・乾田における水稻の生育, 収量ならびに雑草生態について, 熊本県下の一事例. 九州東海大学農学部紀要 5: 15-21
- 片野 学 (1990) 自然農法のイネづくり—生育のすがたと栽培の実際—. 農文協. 1-246. (カバーにイナワラ変色版のカラー見本が掲載されている)
- 片野 学 (2005) 自然農法の出番がきた! (6) 経営的にも, 人間として魅力満載の自然農法. 財団法人・自然農法国際研究開発センター機関誌 自然農法 53: 2-8.
- 民間稲作研究所編 (1999) 除草剤を使わないイネづくり. 農文協. 1-229.
- 仲 延旨 (2007) 農政の転換期における普及の使命. 日本作物学会九州支部会報 73: 60-61.
- 岡田茂吉 (1953) 自然栽培の勝利. 革命的増産の自然農法解説.
- 自然農法国際研究開発センター・MOAプロダクション企画 桜映画社製作 (1984) 記録映画・生きている土. 41分. (このVHSビデオは農文協で購入可能)

2007年版

〈最新〉除草剤・生育調節剤解説

企画・編集／(財)日本植物調節剤研究協会 B5判 203頁 本体5,000円(税別)

最近の水田除草剤25剤、畑地除草剤3剤を集め、最新情報に基づいて、特長、使い方、性質などを解説するほか、登録における試験の成績も紹介。使用基準についてもできるだけ、最新情報を収録。

全国農村教育協会

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
Tel.03-3833-1821 Fax.03-3883-1665
(出版部直通Tel.03-3839-9160 Fax.03-3839-9172)
<http://www.zennokyo.co.jp>

小麦畑における雑草「カミツレモドキ」の除草剤による防除法

青森県農林総合研究センター 水田利用部 伊東秀則

1. はじめに

昭和50年代は水田利用再編対策事業推進により、青森県では土地利用型作物の作付けが誘導され、当時の小麦作付面積は平成18年産面積の2倍の4千haにも及んでいた。そのため、水稻作付けが比較的厳しい西津軽郡鰺ヶ沢町の岩木山麓地帯では、転作作物として小麦が率先して導入されていた。



写真-1 カミツレモドキ
長田武正著「原色日本帰化植物図鑑」
より引用

昭和58年、小麦収穫前の6月下旬、岩木山麓の小麦畑において、傍からみると白く可憐な野菊が圃場一面に咲き誇り素晴らしい景観を呈していた。ところが、写真-1、図-1に示す帰化雑草「カミツレモドキ」(*Anthemis cotula* L.)が小麦畑一面に大繁殖していたのである。

コンバイン収穫を控えた農家が小麦の草丈並

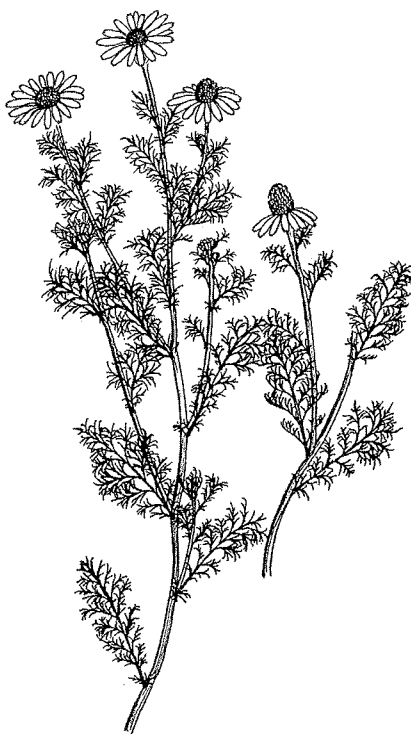


図-1 カミツレモドキ (*Anthemis cotula* L.)
原図。
長田武正著「原色日本帰化植物図鑑」
より引用

に生育した帰化雑草を手取り除草したところ、異臭を放ち、10人中9人が腕に猛烈なかぶれ(花粉の影響と推定)を起こし、数人が通院するなど問題となった。また、小麦の収穫不能な面積が10haにも及び減収はもちろん、人的にも大きな被害を与えた。この実情が、当時、青森県議会農林常任委員会でも取り上げられ、某委員が県側に対策を求めている。この事件は東奥日報新聞にも掲載されている(掲載省略)。

2. 「カミツレモドキ」の発生経緯・実態

被害のあった農場経営者からの聞き取り調査では、本雑草は、昭和51年頃から発生がみられ、年々増加し、昭和58年に大発生した。当農場の作付状況は、昭和51年に地力維持作物としての効果のほか冬期間の凍結を防ぐ効果があるということからニンニクの植付けと同時に畦間にエンバクを播種した。昭和53年までニンニクを連作し、その後、54年から56年まで「ホロシリコムギ」、57年に「キタカミコムギ」、58年に「ホロシリコムギ」と長期間にわたって小麦を連作した。

本雑草種子がエンバク種子に混入していたためエンバク播種後に発生し、その後小麦の長期連作により大発生したと推察されるが、その10数年前から岩木山麓の道端や牧草地に自生していたともいわれ、流入経路・年次は定かではない。

小麦が出芽する頃には本雑草が発生し、冬期間はロゼット状態で越冬し、小麦と同様に生育するという。

これを契機に本雑草の発生実態を調査したところ、当時、木造町(現、つがる市)吹原、出来島、南広森、平滝、鯨ヶ沢町山田野、柏村桑野木田(現、つがる市柏)等西津軽郡を中心とした津

軽地域で広範囲に発生していることが確認された。

昭和60年6月30日時点における本雑草の発生面積は約200haにも及ぶと推定された。

小麦の連作畑では、さらに被害の増加が懸念されるため、「カミツレモドキ」の生態特性を調査し、その対策として、当時、登録されていた小麦対象除草剤についてその除草効果を検討した。この成果は、平成元年の東北農業研究成果情報に公表しているが、あらためて本誌に外来雑草に関する技術情報として紹介したい。

3. 「カミツレモドキ」の生態特性

以下は、木造地区農業改良普及所(現、西北地方農林水産事務所普及指導室)の調査結果と長田武正著「原色日本帰化植物図鑑」を参考に引用させて戴いた。

- 1) 欧州原産の帰化植物で1年生草とされているが、特性調査の結果、ロゼット状態で越冬することが確認されたので、1～2年生草である。
- 2) キク科植物で、生育期間は4～11月で、種子で繁殖する。
- 3) 生育が旺盛で、茎は多くの枝を分け、直立し、ときに斜めに立ち、草丈は20～70cmに達する。
- 4) 葉は2～3回羽状に裂け、裂片はやや立体的に配列する。最終裂片は幅0.5～0.8mmである。
- 5) 開花は、6月上旬から10月下旬までみられ、群落としての開花は長期にわたる。
- 6) 種子の発芽力は強く、開花後10日頃の種子でも高い発芽力を示し、適温条件下で出芽し、繁茂する。
- 7) 本雑草には悪臭があり、この点で類似雑草「イヌカミツレ」、「キゾカミツレ」等と区別される。また、本雑草は、カミツレ属と外観がよく似ているが、花床にはりん片がある点でカミツレ属

と区別される。

4. 除草剤による防除法

本稿は、雑草防除の基本である輪作体系や中耕管理など耕種的防除法ではなく、除草剤による防除効果の紹介であり、キク科雑草に効果的と思われる各種土壌処理剤と茎処理剤の除草効果の検証である。

なお、「カミツレモドキ」防除試験成績は、当時の木造地区農業改良普及所が実施し、取りまとめたものである。

前年産の「カミツレモドキ」種子（発芽率：80%以上）をあらかじめ土壌に混和しておき、小麦播種直前、均一に播種した。試験圃場の土壌は、黒色土壌粘土腐植型で転換7年目の転作田である。

この圃場では、アカザ、次いでスカシタゴボ

ウ、ハコベ、ノボロギクが優占雑草である。

ロックス水和剤ほか2剤の土壌処理単剤による除草効果とアクチノール乳剤ほか3剤の茎葉処理剤による葉齢別除草効果について検討した。

この結果、表-1に示すように小麦播種後の土壌表面散布ではいずれの土壌処理剤も除草効果が極大～大で、「カミツレモドキ」を完全に抑えている。

「カミツレモドキ」に対する茎葉処理剤の葉齢別除草効果を表-2に示した。アクチノール乳剤でも本雑草6～7葉期までは完全枯死に至っている。ただし、8葉期以上では主茎の枯死が完全でなく残草する。

畦畔や未耕地ではグラモキソン液剤、レグロックス液剤、ラウンドアップ液剤が効果的である。

表-1 「カミツレモドキ」に対する土壌処理剤の除草効果

(昭和61年 青森県農業試験場)													
年次	供試薬剤名	使用量 (ml, g/a)	風乾重(%, m ² 当たり)										薬害 有無
			カミツレモドキ	アカザ	スカシタゴボウ	ハコベ	ノボロギク	タデ	その他広葉	広葉計	スズメノカタビラ	合計	除草効果
昭和58年	ロックス水和剤	15	0	0	0	0	89.2	14.0	—	8.8	28.4	12.3	無
	シマジン水和剤	10	0	0	0	10.0	0	16.0	—	1.9	42.3	9.2	大
	サターンバアロ乳剤	75	0	0	0	0.6	3.8	42.0	37.7	10.3	5.2	9.4	極大
	無除草区 (乾燥物重g/m ²)	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	—
昭和59年	ロックス水和剤	15	0	—	—	0	0	20.0	0	1.3	60.0	10.9	無
	シマジン水和剤	10	0	—	—	10.0	0	20.0	0	2.6	0	2.2	大
	サターンバアロ乳剤	75	0	—	—	0	16.7	0	0	1.3	0	1.1	極大
	無除草区 (乾燥物重g/m ²)	—	100.0	—	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	—
			8.6	—	—	2.0	1.2	1.0	2.6	15.4	3.0	18.4	—

- 注 1) 土壌条件 黒色土壌粘土腐植型
 2) 供試品種 キタカミコムギ
 3) 播種期 昭和58年9月18日、昭和59年9月23日
 4) 処理時期 昭和58年9月18日、昭和59年9月25日

表-2 「カミツレモドキ」に対する茎葉処理剤の葉齢別除草効果

(昭和60年 青森県農業試験場)						
年次	供試薬剤名	使用量 (ml, g/a)	カミツレモドキの葉齢			
			2～3葉期	4～5葉期	6～7葉期	8葉期以上
昭和59年	アクチノール乳剤	15	枯死	枯死	枯死	主茎残る
	グラモキソン液剤	20	〃	〃	〃	枯死
	レグロックス液剤	40	〃	〃	〃	〃
	ラウンドアップ液剤	50	〃	〃	〃	〃
						処理日から枯死までの所要日数
						7日
						3日
						3日
						15日

- 注 1) 土壌条件 黒色土壌粘土腐植型
 2) 供試雑草 カミツレモドキ
 3) 播種期 昭和59年9月3日
 4) 処理時期 昭和60年5月31日～6月30日 生育期（葉齢2～15葉期）

表-3 「カミツレモドキ」防除試験成績

(昭和59年 青森県木造地区農業改良普及所)

供試薬剤名	使用量 (ml, g/a)	風 乾 重 (%, m ² 当たり)						薬害 有無	除草効果
		カミツレモドキ	ハコベ	その他広葉	広葉計	イネ科計	合計		
シマジン水和剤+ロックス水和剤	7+15	0	0.6	0	1.0	15.9	無	無	大
シマジン水和剤+ゴーゴーサン乳剤	7+25	0.1	0	0	77.9	6.8	〃	〃	極大
アクチノール乳剤	15	0.1	0	0	1.0	7.3	〃	〃	極大
無除草区(乾物重g/m ²)	—	100	100	100	100	100	—	—	—
		95.6	17.0	10.4	1.7	1.3			

- 注 1) 土壌条件 植壤土
 2) 供試品種 ホロシリコムギ
 3) 播種期 昭和59年9月9日
 4) 処理時期 土壌処理：昭和59年9月13日、茎葉処理：昭和59年9月22日

表-4 「カミツレモドキ」に対する除草剤の使い方

(昭和61年 青森県農業試験場)

除草剤名	使用量 (製品g, ml/a)	使用時期・処理方法
ロックス水和剤 シマジン水和剤 サターンバアロ乳剤	10~20 10 75	土壌表面散布(麦は種後3日以内)
アクチノール乳剤	12~16	生育期茎葉散布(麦2~3葉期以降、雑草発生揃~5~6葉期まで)
グラモキソン液剤	20~30	耕起前、生育期茎葉散布(展着剤加用)

- 注) 使用上の留意事項
 1) 本雑草の生育が8葉期以上になるとアクチノール乳剤の除草効果は劣る。
 2) 畦畔、未耕地ではグラモキソン液剤のほかラウンドアップ液剤も使用できる。

木造地区農業改良普及所の担当者が鯉ヶ沢町大字湯舟地区にある農場の小麦畑の一角で実施した雑草「カミツレモドキ」防除試験成績を表-3に示した。アクチノール乳剤による茎葉処理、土壌処理剤の2種混用土壌表面処理いずれも除草効果が極大〜大で、「カミツレモドキ」をほぼ抑えている。

以上の結果を総括すると、表-4の「カミツレモドキ」に対する除草剤の使い方に示すとおりである。

なお、使用上の留意事項として、本雑草の生育が8葉期以上になるとアクチノール乳剤の除草効果は劣ること。また、畦畔、未耕地ではグラモキソン液剤の他、ラウンドアップ液剤を使用できることを掲げた。

5. おわりに

本雑草は、日本全国に散発的に出現するが、す

ぐに消えてしまうといわれる。しかし、同一作物の連作や除草管理の不徹底によって大繁殖することがある。帰化植物の「イヌカミツレ」「キゾカミツレ」であれ、キク科雑草であれば、表4に取り上げた除草剤で防除可能であり、基本的な輪作体系の導入と除草体系を組み合わせ実践すれば問題とならない。

ただし、本雑草の抜き取りの際は、かぶれ対策として手袋と帽子、開口部の少ない作業衣の着用をお願いしたい。

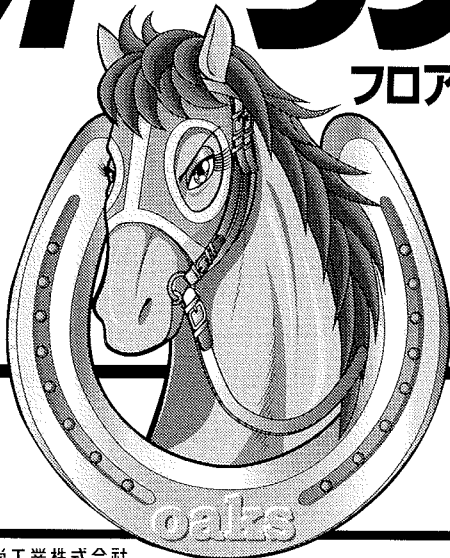
引用文献

- 1) 長田武正著 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社. 大阪, p29.
- 2) 青森県農業試験場編：昭和61年度指導参考資料No.17. p167-171
- 3) 昭和59年度木造地区農業改良普及所現地試験成績書

水田初・中期一発処理除草剤

オークス®

フロアブル



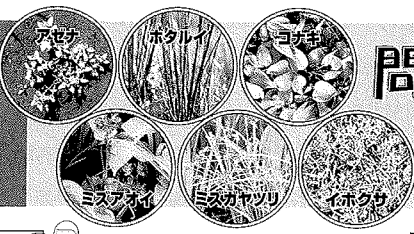
新発売

日産化学工業株式会社
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル) 03(3296)8141
<http://www.nissan-nouyaku.net/>

抵抗性雑草防除の本命!!

省力タイプの
高性能一発処理
除草剤シリーズ

問題雑草を
一掃!!



水田用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン		水田用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン		水田用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン ジャンボ	投げ込み用 水田用一発処理除草剤 マサカリ ジャンボ
1キロ粒剤75	D1キロ粒剤51	フロアブル ダイナマンフロアブル ダイナマンフロアブル	Dフロアブル ダイナマンD ダイナマンD		
					

日本農薬株式会社
東京都中央区日本橋1丁目2番5号
ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

*空容器は農場に放置せず、
環境に影響のないように適切に処理してください。

平成19年度春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年11月28日(水)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者12名、委託関係者51名ほか、計75名の参集を得て、除草剤30薬剤(202点)、生

育調節剤3薬剤(14点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草, ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判定	判定内容
1. AKD-7175粒 DBN 1.2%, シナジン 3% [アール・エス・ジー]	コウライシ バ	適用性 新規	東雲GC 関西G研 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、シナ]・ ・芝生育期 雑草発生前 ・8, 10, 12g ・土壌処理		継) 効果、薬害の確認
	コウライシ バ	適用性 新規	東雲GC 関西G研 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、シナ]・ ・芝生育期 雑草発生前 ・8, 10, 12g ・土壌処理		
2. B-3015乳90 ベンチホ-ブ 90% [クミヤ化学工業、理研 グループ]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 鳥取園試 西日本G研 (3)	[一年生イネ科雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.4, 0.6, 0.8mL<200-300> ・土壌処理 ・対) ベンチホ-ブ乳剤 0.6mL <200-300>	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシ) 一年生イ ネ科雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.4~0.8mL<200-300mL>/m ² ・土壌処理 継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシ) ・芝はぎ取り後処理での効果、薬害 の確認(コウライシ)
3. BEH-44770アブル 新規化合物 2.3% [ハインツ クロップサイエ ンス]	コウライシ バ	作用性 新規	関西G研 (1)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・芝生育期 雑草生育期 (イ ネ科5-6葉期) ・0.075, 0.15, 0.2, 0.25mL <100-150> ・茎葉処理 ・対) アーランド液剤 1mL <100-150>	継	継) 効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/㎡ ・ 処理方法	判 定	判定内容
BEH-4477077 アール [委託者]	ノシバ	作用性 新規	東日本G研 (1)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.075, 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 ・ 対) アージラン液剤 1mL<100-150>		
	コウライシバ	適用性 新規	植調埼玉 リバ-富士CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 対) アージラン液剤 1mL<100-150>		
	ノシバ	適用性 新規	植調埼玉 リバ-富士CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 ・ 対) アージラン液剤 1mL<100-150>		
4. BEH-5077077 アール 新規化合物 20% [ハ'イェル クロップ サイエンス]	コウライシバ	作用性 新規	東日本G研 (1)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15, 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>	継	(継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	関西G研 (1)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15, 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		
	コウライシバ	適用性 新規	東日本G研 植調埼玉 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 植調埼玉 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
5. BES-002707アブル オキサジクロネン 15%、 オキサジアルギル 17% [ハ ⁺ イエル クロップ ⁺ サイエ ス]	コウライシ ハ ⁺	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[高薬量(0.2mL/m ²)の薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) ウェイファ ⁺ フロア ⁺ 0.5g <200-300>	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) 一年生 雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.2mL<200~300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシハ ⁺	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[高薬量(0.2mL/m ²)の薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL <200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) ウェイファ ⁺ フロア ⁺ 0.5g <200-300>		継) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺)
6. BES-003顆粒水和 ヨードスルホンメチルナトリウム 塩 2%、 オキサジクロネン 30% [ハ ⁺ イエル クロップ ⁺ サイエ ス]	コウライシ ハ ⁺	作用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	西日本G研 (1)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15g<200> 0.3g<400> 0.6g<800> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) 一年 生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.075~0.1g<200-300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシハ ⁺	作用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	西日本G研 (1)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15g<200> 0.3g<400> 0.6g<800> ・ 土壌処理		継) ・ 0.15gでの効果、薬害の確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 効果、薬害について年次変動の 確認(コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 倍量薬害試験での年次変動の確 認(コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺)
	コウライシ ハ ⁺	適用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	東日本G研 那須ナセリー 埼玉スサジ ⁺ A2002 浜松シーサイド ⁺ GC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (8)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.075, 0.1, 0.15g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イン ⁺ ー ⁺ DF 0.03g<200-300>		
	ノシハ ⁺	適用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	東日本G研 那須ナセリー 南長野GC 浜松シーサイド ⁺ GC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (8)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.075, 0.1, 0.15g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イン ⁺ ー ⁺ DF 0.03g<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
7. BES-0449顆粒水和 グロビネ 70% [ハ イェル クロップ サイエ ンス]	ベントグ ラス	作用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 藻類発生始期 ・ 3g<500> ・ 6g<1000> ・ 12g<2000> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) [ベントグラス] 藻類 ・ 芝生育期 藻類発生始期 2回以内 2~3g<500mL>/m ² ・ 茎葉処理 (継) ・ 連用試験での確認(ベントグラス) ・ 実証試験での確認(ベントグラス)
	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 植調埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研 (5)	[藻類] ・ 藻類発生始期(1回処理) 2, 3g<500> ・ 藻類発生始期(1回目)→再生直 後(2回目) 2g<500>→2g<500> 3g<500>→3g<500> ・ 茎葉処理 ・ 対) ジーレット水和剤 3g<1000>		
8. DAH-0565水和 既知化合物A 1% 既知化合物B 50% [サウーミカビ日本]	ベントグ ラス	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[藻類] ・ 藻類発生始期 ・ 1, 2.5, 2, 3, 4, 5g<500ml> ・ 茎葉処理	継	(継) 効果、薬害の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研 (3)	[藻類] ・ 藻類発生始期(1回処理) 2, 3g<500> ・ 藻類発生始期(1回目)→再生始 期(2回目) 2g<500>→2g<500> 3g<500>→3g<500> ・ 茎葉処理		
9. DH-023顆粒水和 ベントレート 30% [日本曹達]	ベントグ ラス	適用性 継続	グランドイ那須GC36 東日本G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生イネ科雑草(ヒシバ主体)] ・ 一年生イネ科雑草発生初期 (ヒシバ) ・ 0.15, 0.2, 0.3g<100~200> ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス, ケンタッキー ブルーグラス) スズメカビ] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで) 0.2~0.3g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 (注) ・ ベントグラスの活性が低い場合に は、薬害を生じることがある [春夏作; (ベントグラス) ヒシバ] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで) 0.15~0.3g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 (注) ・ ベントグラスの活性が低い場合に は、薬害を生じることがある ・ ヒシバには効果が劣る (継) ・ 低薬量のスズメカビに対する効 果の確認(ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルーグラス) ・ 連用試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルーグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルーグラス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判 定	判定内容
10. DPX-F6025 顆粒水和 クロリムロニフル 25% [丸和ハ ^イ イオミカル、デ ^ュ ボ ^ン]	コウライシ ハ ^イ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g<200>	実 ・ 継	実) [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) 広葉雑草] ・芝生育期、 雑草発生前～生育期 0.02～0.04g<200mL>/m ² 茎葉処理 [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ヒメグサ、ハマスグサ] ・芝生育期、 雑草発生前～発初期 ・0.01～0.015g <150～200mL>/m ² ・茎葉処理
	ノシハ ^イ	適用性 継続	泉ハ ^イ ータウンGC 東雲GC 植調埼玉 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g		継) ・広葉雑草発生前の効果、薬害について、年次変動の確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・広葉雑草生育期の効果、薬害について、年次変動の確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・連用薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・実証試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ)
	ノシハ ^イ	適用性 継続	泉ハ ^イ ータウンGC 東雲GC 植調埼玉 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草生育期 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g<200>		
11. FUIN-2 微粒剤 ダ ^グ ザ ^メ ット 98% [ア ^ク カネショウ]	ケンタッキー ブ ^ル グ ^ラ ス	適用性 継続	新中国G研 (1)	[一年生雑草] ・芝播種または植付け3週間前 ・30kg/10a ・土壌混和 (全面散布→土壌混和→ビ ^ニ ール被覆あるいは鎮圧→7～14日間放置→ガス抜き (2回以上耕起)→芝播種または植付け	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) 一年生雑草] ・植付3週間前まで ・30g/m ² ・土壌混和処理 (土壌に本剤の所定量を加え十分混和した後ビ ^ニ ール等での被覆または鎮圧する。7～14日後被覆を除去して耕起によるガス抜きを行う。) [春夏作: (ベ ^ン トグ ^ラ ス) 一年生雑草] ・播種3週間前まで ・30g/m ² ・土壌混和処理 (土壌に本剤の所定量を加え十分混和した後ビ ^ニ ール等での被覆または鎮圧する。7～14日後被覆を除去して耕起によるガス抜きを行う。) 継) ・効果、薬害の確認 (ケンタッキーブ ^ル グ ^ラ ス) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ 、ベ ^ン トグ ^ラ ス、ケンタッキーブ ^ル グ ^ラ ス) ・実証試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ 、ベ ^ン トグ ^ラ ス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作 物 名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・処理方法	判 定	判定内容
12. GG-180粒 シアジン 1%, DBN 0.5%	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/㎡ ・土壌処理 注) ・高温期での処理は芝に薬害を生 じることがある
[日本ケ「リンアント」カー デン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ) ・実証試験での確認(コウライシハ)
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
13. GG-181粒 シアジン 1%, DBN 0.5%, N:P:K:Mg=11:8:7:3	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/㎡ ・土壌処理 継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ) ・実証試験での確認(コウライシハ)
[日本ケ「リンアント」カー デン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ) ・実証試験での確認(コウライシハ)
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)テマックス粒剤 30g		
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理		
14. GG-182粒 シアジン 1%, メコフロップ Pカリウム塩1%	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/㎡ ・土壌処理 注) ・高温期での処理は芝に薬害を生 じることがある
[日本ケ「リンアント」カー デン] GG-182粒	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ) ・実証試験での確認(コウライシハ)
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・処理方法	判 定	判定内容
15. GG-191粒 既知化合物 0.1%, 既 知化合物 0.5%, N:P:K:Mg=11:8:7:3 [日本ケリーンアント・ガー デン]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対) マナックス粒剤 30g	継	継) 効果、葉害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対) ベンボル粒剤 15g		
16. KUH-079顆粒水和 新規化合物 50% [クミイ化学工業、理研 グリーン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生イネ科雑草及び広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.04, 0.06g<100-200> ・茎葉処理	継	継) 効果、葉害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・茎葉処理 ・対) グロートスマッシュSC 0.03mL <150-200>		
17. NC-340顆粒水和 ハロメロンメチル 12%, プロジミン 40% [日産化学工業]	ケンタッキー ブルーグ ラス	適用性 新規	泉パークタウンGC グランディ那須GC36 那須ナースー (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.15, 0.2, 0.3g<200-300> ・土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コウライシハ、ノシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 ・イネ科雑草発生前 ・0.2~0.3g<200~300mL>/㎡ ・土壌処理 継) ・効果、葉害の確認 (コウライシハ、ノシハ) ・効果、葉害について年次変動の確 認 (ケンタッキーブルーグラス)
18. NC-622液 グリサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	ノシハ	適用性 新規	植調研究所 佐野GC 南長野GC 新中国G研 (4)	[雑草全般] ・芝生育期 雑草生育期 (草丈15-30cm) ・2.5, 5, 10倍希釈 ・茎葉塗布処理	継	継) 効果、葉害の確認
19. NFK-062水和 8-ヒドロキシノリネン銅 80% [日本農業]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[コノ類] ・芝生育期 コノ類発生期 ・2.5g<200-300>1回処理 ・2.5g<200-300>×2回処理 ・2.5g<200-300>×3回処理 ・茎葉処理 ・対) ドウクリン水和剤 2.5g <200-300>	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス) コノ類] ・芝生育期、 コノ類発生期 ・2.5g<200-300mL>/㎡ 3回以内 ・土壌処理 継) ・倍量葉害試験での確認 (ベントグラス) ・連用試験での確認 (ベントグラス) ・実証試験での確認 (ベントグラス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
20. NHK-06170アフル ビラフルフェニル 2% [日本農業]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 (2) 関西G研 新中国G研 西日本G研 (5)	[コメ類] ・ 芝生育期 コメ類生育期 ・ 0.2, 0.4, 0.6mL<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 対)タカDF 0.03g<100-200>	実 ・ 継	実) [春夏作: (ベントグラス) コメ類] ・ 芝生育期、 コメ類生育期 ・ 0.2~0.4mL<100-200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	ベントグ ラス	適用性 (H18 自主)	東日本G研 (1)	[コメ類] ・ 芝生育期 コメ類生育期 ・ 0.2, 0.4mL<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 対)タカDF 0.03g<100-200>		継) ・ 0.2mL, 0.4mLでの年次変動の確認 (ベントグラス) ・ 0.6mLでの効果、薬害の確認 (ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 連用試験での確認 (ベントグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス)
21. NOJ-120顆粒水和 トリフロキシメスフロキサリウム塩 72% [シンジエンタ ジャパン]	ハーフミュー ググラス	適用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H18春→H18秋→H19春→H19秋 ・ 芝生育期 雑草発生初期 (3葉期まで) ・ 0.006g<150-250> ・ 茎葉兼土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作: (ハーフミューググラス) 一年生雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉兼土壌処理 [春夏作: (コライシバ、ノシバ) 一年生雑 草、ヒメカキ] ・ 芝生育期 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉兼土壌処理 [春夏作: (コライシバ、ノシバ) スズメヒエ 類] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 0.0045~0.006g<150~200mL> ・ 茎葉処理 [春夏作: (コライシバ、ノシバ) チガヤ] ・ 芝生育期、 雑草生育期 (出穂前) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉処理 注) チガヤは生育を抑制される が、完全枯死には至らな い。 継) ・ 倍量薬害試験での確認 (ハーフミューググラス) ・ 連用薬害試験の継続 (ハーフミューググラス) ・ 実証試験での確認 (ハーフミューググラス) ・ スズメヒエ類に対する低薬量で の効果の確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ、 ノシバ)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草: ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/㎡ ・ 処理方法	判 定	判定内容
22. RGH-0601粒 ベンチメクリン 0.86% (N:P:K=25:5:10 (USA 表示)) [理研がリン]	コウライシ バ	適用性 継続	佐野GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 ・ 対) テマックス粒剤 30g	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ) 一年 生雑草(科除く)] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 20~25g ・ 土壌処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ケンタッキーブルーグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ)
	ノシバ	適用性 継続	佐野GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 ・ 対) テマックス粒剤 30g		
	ケンタッキー ブルーグ ラス	適用性 新規	植調北海道 泉ハークタムGC グランディ那須GC36 (3)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 10, 15, 20g ・ 土壌処理 ・ 対) テマックス粒剤 15g		
23. SAH-001乳 新規化合物 10% [丸和ハイオミカ、住商 アグロインターナショナル]	コウライシ バ	作用性 新規	植調研 西日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	新中国G研 (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ハントク ラス	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ケンタッキー ブルーグ ラス	作用性 新規	泉ハークタム (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ライグラス	作用性 新規	泉ハークタム (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	コウライシ バ	適用性 新規	東雲GC 東日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.1, 0.2, 0.3mL<200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ノシバ	適用性 新規	泉ハークタム 新中国G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.1, 0.2, 0.3mL<200> ・ 茎葉兼土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草: ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
24. SB-5521顆粒水和 ベンディメタリン 53% [エス・ディー・エス アイテック]	ハーフ・ミュー ダグ・グラス	適用性 新規	静岡G場協会 浜松・サイト GC 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.3, 0.45, 0.6g<200-300> ・ 茎葉処理 ・ 対) ユー・アッパ・プロアール 0.6g ・ <200-300>	実 ・ 継	実) 従来どおり ・ [春夏作: (コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.3~0.6g<200~300mL>/m ² ・ 土壌処理 継) 効果、葉害の確認 (ハーフ・ミューダグ・グラス)
25. SL-160顆粒水和 フラザスロン 25% [石原産業]	コウライシ バ	適用性 継続	植調埼玉 新中国G研 (2)	[ハスグ]	実 ・ 継	実) ・ [春夏作: (コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、ヒメグ]
	ノシバ	適用性 継続	植調埼玉 新中国G研 (2)	[ハスグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) シバ・ゲン水和剤 0.05g ・ <150-200>		注) 展着剤を加用する [春夏作: (コウライシバ、ノシバ) ハスグ] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	コウライシ バ	適用性 継続	佐野GC 花屋敷GC 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		注) 展着剤を加用する [春夏作: (ハーフ・ミューダグ・グラス) 一年生 雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	ノシバ	適用性 継続	東雲GC 植調埼玉 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		注) 展着剤を加用する 継) ・ 年次変動の確認 (ハーフ・ミューダグ・グ ラス) ・ 0.03gでの効果、葉害の確認 (ハーフ・ミューダグ・グラス)
	ハーフ・ミュー ダグ・グラス	適用性 新規	埼玉スタジアム2002 浜松・サイト GC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 門司GC (6)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) シバ・ゲン水和剤 0.025g ・ <150-200>		・ ヒメグ、ハスグ に対する効果の確認 (ハーフ・ミューダグ・グラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、 ノシバ、ハーフ・ミューダグ・グラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシバ、 ノシバ、ハーフ・ミューダグ・グラス) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、ノ シバ、ハーフ・ミューダグ・グラス)
	コウライシ バ	実証 新規	関西G研 (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		
	ノシバ	実証 新規	関西G研 (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
26. SL-160水和 フラザルホン 10% [石原産業]	コウライシ バ	適用性 継続	関西G研 新中国G研 (2)	[ス'メヒエ] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) モニメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシバ、ノシバ) ス'メヒエ] ・ 芝生育期 雑草生育期 (株径 15cm 以下) ・ 0.05~0.1g<150~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する
	ノシバ	適用性 継続	関西G研 新中国G研 (2)	[ス'メヒエ] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) モニメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>		[春夏作; (バ'ミュダ'グラス) 一年生 雑草, 多年生広葉雑草, ヒメグサ] ・ 芝生育期, 雑草発生初期 ・ 0.025~0.05g<150~200mL> /m ² ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する (コウライシバ、ノシバ) の上記以外の判定 内容は従来通り) 継) ・ 一年生イネ科雑草に対する年次変 動の確認 (バ'ミュダ'グラス) ・ ス'メヒエに対する効果の年次変動 の確認 (コウライシバ、ノシバ)
27. SYJ-19470アブル プロシ'アミン 40% [シジエンタ ジャパン]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.125, 0.19, 0.25g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) カサ'ロック水和剤 0.12g <200-300>	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ) 一年 生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期, 雑草発生前 ・ 0.125~0.25g<200-300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシバ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.125, 0.19, 0.25g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) カサ'ロック水和剤 0.12g <200-300>		継) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、ノシバ)
28. SYJ-214水和 既知化合物 50% [シジエンタ ジャパン]	ベ'ントク ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[藻類] ・ 芝生育期 藻類発生期 ・ 0.2g<500>, 0.2g<1000> 0.4g<500>, 0.4g<1000> ・ 茎葉処理	継	継) 効果、薬害の確認
	ベ'ントク ラス	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[藻類] ・ 芝生育期 藻類発生期 ・ 0.2, 0.4g<500> ・ 茎葉処理 ・ 対) グ'エコーラーフ 1.0mL<1000>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
29. ア・ロジ・アミン肥料粒 ア・ロジ・アミン 0.24% [日産化学工業]	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	泉パークウイング グランドイ那須GC36 東日本G研 那須ナセー (4)	[一年生イネ科雑草(東北～九州)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 15, 20, 30g ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コライシバ、ノシバ) 一年生イ ネ科雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 20～40g/m ² ・ 土壌処理 [春夏作; (コライシバ、ノシバ) 一年生雑 草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 30～60g/m ² ・ 土壌処理 注) イネ科雑草の発生の多い場所での 使用は注意する [春夏作; (ケンタッキーブルーグラス; 北海 道) スズメノカタビラ増殖防止] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ発生前 ・ 10～20g/m ² ・ 土壌処理 継) ・ 効果、葉害の確認(ケンタッキーブル ーグラス(東北以南)) ・ 低薬量での効果の確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 20gの実証試験での確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 連用試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ケンタッキーブル ーグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ケンタッキーブル ーグラス)
30. OKUF-001水和 オキサベンコナゾールフルアル酸塩 2.5% マンゼブ 65% [クミイ化学工業]	ベントグ ラス	薬害 自主	東日本G研 (1)	[秋期処理薬害] ・ 藻類生育期 ・ 3g単用, 3g×2回, 3g×3回<500> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (ベントグラス) 藻類] ・ 芝生育期、藻類発生前 ・ 3g<500mL>/m ² 1～2回 ・ 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認(ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 実証試験での確認(ベントグラス)

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. KUH-833FH707アル ブ [®] ロヘキサ [®] オンカルシウム塩 25% [クマヤ化学工業、理研 グリーン]	ソバ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[芽数増加] ・ 芝生育盛期 (5-8月) ・ 0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [(ベントグ [®] ラス、コライシバ) 芽数増加] ・ 芝生育期 ・ 0.04~0.06mL ・ <100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ソバ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (コライシバ) ・ 実証試験での確認 (コライシバ)
2. SH-0602液 ヒト [®] ロキシイリキサ [®] ール 16.5%, (水溶性リン酸 18%, 水 溶性加里 20%) [三共アグリ]	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	植調研究所 (1)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 ・ 250倍, 500倍, 750倍<500> ・ 1回/2週間 計5回 ・ 茎葉処理 (ポット栽培) ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する好 [®] レ液剤 ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する肥料成分量	継	継) 効果、薬害の確認
	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	太平洋C美野里C (1)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 ・ 250倍, 500倍, 750倍<500> ・ 1回/2週間 計5回 ・ 茎葉処理 (慣行栽培) ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する好 [®] レ液剤 ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する肥料成分量		
	ベントグ [®] ラス	適用性 新規	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 (6-8月) ・ 250倍, 500倍<500> ・ 1回/月 計3回 ・ 茎葉処理		
3. SYI-201707アル バ [®] クロブトラ [®] ール 21.5% [シンジェンタ ジャパン]	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[連年施用] ・ H19春→H19秋→H20春→H20秋 ・ 芝生育期 スズメノカタビラ出穂前 ・ 0.08mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグ [®] ラス) スズメノカタ ビラ出穂抑制] ・ 芝生育期 ・ スズメノカタビラ出穂前 ・ 0.04~0.08mL ・ <100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ スズメノカタビラ密度軽減効果につい て (ベントグ [®] ラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグ [®] ラス) ・ 連用薬害試験での確認 (ベントグ [®] ラス)
	ベントグ [®] ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C <関西G研> 新中国G研 (4)	[スズメノカタビラ出穂抑制、密度低減] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ出穂前 ・ 0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理		

平成19年度春夏作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年12月12日(水)～13日(木)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者79名、委託関係者40名ほか、計140名の参集を得て、除草剤33薬剤(290点)、生

育調節剤11薬剤(58点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
1. AH-01液 グリホサートPナトリウム塩 11.5% [明治製菓、北興化学 工業]	ブロッコリー	適用性 継続	新潟農総園研 愛知農総試 京都丹後<収量> (3)	[一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対)ブリガロックSL液 600mL<100>	実・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・耕起または定植8日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・300～500mL<100～150L>/10a (継) ・定植前処理での薬害について年 次変動の確認
		適用性 継続	新潟農総園研 植調研究所 愛知農総試 (3)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対)ブリガロックSL液 600mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・畦間茎葉処理 ・300～500mL<100～150L>/10a (注) ・雑草の草丈 30cm 以下で散布す る。 ・作物に飛散しないように散布す る。
	ハクサイ	適用性 継続	植調青森 三重科学技術 和歌山暖地園芸 <収量> (3)	[一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対)ハス液 300mL<100>	実・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・耕起または定植6日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・300～500mL<100～150L>/10a (継) ・定植前処理での薬害について
		適用性 継続	植調青森 三重科学技術 和歌山暖地園芸 <収量> (3)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対)ハス液 300mL<100>	継	(継) 効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
AH-01液	レタス	適用性 継続	新潟高冷地 長野野菜花き試 愛知農総試<収量> 広島農技 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ-液 300mL<100>	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植8日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 継) ・ 定植前処理での薬害について
		適用性 継続	植調研究所 愛知農総試<収量> 広島農技 <南九州大学> (4)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ-液 300mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
	アスパラ ガス	適用性 継続	植調北海道 新潟高冷地 <香川農試三木> (3)	[一年生雑草] ・ 萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ-液 300mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
		適用性 継続	植調北海道 新潟高冷地 長野野菜花き試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ-液 300mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布す る。 ・ 作物に飛散ないように散布す る。
	ネギ	適用性 継続	石川植防 島根農技 鹿児島大隅 (3)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ブリク ロックL液 600mL<100>	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植10日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 継) ・ 定植前処理での薬害について
		適用性 継続	石川植防 島根農技 福岡農総試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ-液 300mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布す る。 ・ 作物に飛散ないように散布す る。

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容 アスターラインは新たに判定した部分
AH-01液	キュリ	適用性 継続	岩手農研南部 長野南信試 鹿児島農総試 (3)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対)バスタ液 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認
	ビーマン	適用性 継続	南九州大学 (1)	[一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対)バスタ液 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認
		適用性 継続	南九州大学 鹿児島農総試 (2)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対)バスタ液 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認
	イコ	葉害 新規	長野南信試 奈良農総試 (2)	[葉害試験] ・定植直前 ・500, 1000mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要	実 ・ 継	実) [春夏作;一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・300~500mL<100~150L>/10a [春夏作;一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・畦間茎葉処理 ・300~500mL<100~150L>/10a 注) ・雑草の草丈 30cm 以下で散布する。 ・作物に飛散しないように散布する。 継) 定植直前処理での葉害について年次変動の確認
	ダイコン	適用性 継続	植調青森 栃木農試 埼玉鶴ヶ島 (3)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・300mL<100, 150> 500mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対)バスタ液剤 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
AH-01液	ニンジン	適用性 継続	植調青森 植調研究所 愛知農総試 (3)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) プ'リ'ロックスL液 600mL<100>	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 継) 播種直前処理での薬害について 年次変動の確認
	ニンジン	適用性 継続	植調青森 植調研究所 愛知農総試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) プ'リ'ロックスL液 600mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布する。 ・ 作物に飛散しないように散布する。
	ゴ'ボ'リ	適用性 継続	北海道十勝農試 青森畑園試 宮崎畑園 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ハ'ビ'-液剤 300mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布する。 ・ 作物に飛散しないように散布する。
	サ'ト'イ	適用性 継続	三重科学技術 鹿児島大隅 (2)	[一年生雑草] ・ 耕起または植付前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ハ'ス'液剤 300mL<100>	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または植付10日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布する。 ・ 作物に飛散しないように散布する。 継) 植付直前処理での薬害について

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アングラーインは新たに判定した部分
AH-01液	ヤマノイ	適用性 継続	北海道十勝農試 青森畑園試<収量> 三重科学技術セ <収量> (3)	[一年生雑草] ・ 植付後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ'-液剤 300mL<100>	保 留	—
		適用性 継続	北海道十勝農試 青森畑園試<収量> 三重科学技術セ <収量> (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> ・ 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハビ'-液剤 300mL<100>	保 留	—
2. AKD-71637077ル 既知化合物 40% [アグロネショウ]	野菜一 般	作用性 継続	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ ①定植前 (植穴前) 雑草発生前 ②定植後 雑草発生前 ・ 100, 150, 200mL<100> ・ 全面土壌処理	—	
	サ	適用性 新規	植調研究所 福岡農総試 (2)	[一年生雑草] ・ 定植活着後 雑草発生前 ・ 100, 150mL<100> ・ 全面土壌処理	継	継) 効果、葉害の確認
	グイン	適用性 新規	植調青森 栃木農試 香川農試 (3)	[一年生雑草] ・ 播種後出芽前 雑草発生前 ・ 100, 150, 200mL<100> ・ 全面土壌処理	継	継) 効果、葉害の確認
	ニンジン	適用性 新規	植調青森 植調研究所 岐阜農技南濃 (3)	[一年生雑草] ・ 播種後出芽前 雑草発生前 ・ 100, 150, 200mL<100> ・ 全面土壌処理	継	継) 効果、葉害の確認
3. AKD-7164水和 シアンジン 50% [アグロネショウ]	タマネギ (直播)	作用性 新規	北海道花・野菜セ 北海道北見農試 (2)	[一年生雑草(ワユヲを除く)] ・ 播種後出芽前 雑草発生前 ・ 50, 75, 100g<100> ・ 全面土壌処理	—	(作用性)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 〈〉は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
4. ALZ-0642液 30化メチル 19.5% クロピクリン 79.5% [アリスタ ライフサイエンス]	ホレンソウ	作用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・播種前 雑草発生前 ・10L (1.0mL/穴) 15L (1.5mL/穴) 20L (2.0mL/穴) ・くん蒸処理 (点注処理) 対) クロピクリン液30L (3.0mL/穴) 処理方法) 7日間くん蒸後、被覆を除去し、 7日後を目安に耕起、さらにその 後3日以上放置し定植する。	—	
	ホレンソウ	適用性 新規	〈植調研究所〉 長野野菜花き試 (2)	[一年生雑草] ・播種前 雑草発生前 ・10L (1.0mL/穴) 15L (1.5mL/穴) 20L (2.0mL/穴) ・土壌くん蒸処理 (点注処理) 対) クロピクリン液30L (3.0mL/穴) 処理方法) 7日間くん蒸後、被覆を除去し、 7日後を目安に耕起、さらにその 後3日以上放置し定植する。		
5. ANK-553細粒 ペンデメタリン 2% [BASFアグロ]	ハクサイ	適用性 継続	福島浜地域 三重科学技術 〈収量〉 香川農試 (3)	[一年生雑草(本科、ユカサを除く)] ・定植前 雑草発生前 ・4, 5, 6kg ・全面土壌処理 対) コーゴースン乳 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認
	アスハ ^ラ ガス	適用性 継続	山形最上産地研 新潟農総園研 長野野菜花き試 (3)	[一年生雑草(本科、ユカサを除く)] ・萌芽前 雑草発生前 ・4, 5, 6kg ・全面土壌処理 対) 慣行	継	継) 効果、葉害の確認
	サトイモ	適用性 継続	新潟農総園研 (1)	[一年生雑草(本科、ユカサを除く)] ・植付前 マルチ前 雑草発生前 ・4, 5, 6kg ・全面土壌処理 対) コーゴースン乳 300mL<100>	継	継) 効果、葉害の確認
	ショウガ	適用性 継続	植調研究所 鹿児島大隅 (2)	[一年生雑草(本科、ユカサを除く)] ・植付後 雑草発生前 ・4, 5, 6kg ・全面土壌処理 対) 慣行	継	継) 効果、葉害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 く>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容 アタ-ラインは新たに判定した部分
6. BAS-656乳 ジメナミド-p 64% [BASFアグロ]	ブロッコリー	適用性 継続	新潟農総園研 京都丹後<収量> (2)	[一年生雑草(ジ科、アカザ科、アブラナ科を除く)] ・定植後 雑草発生前 ・30, 40, 50mL<100> ・全面土壌処理 対) アグロマックス水和 200~300g<100>	実・継	実) [春夏作、露地;一年生雑草(ジ科、アカザ科、アブラナ科を除く)] ・定植後 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・50mL<100L>/10a 注) 夏期高温時での使用を避ける 継) 年次変動の確認
	タマネギ	適用性 継続	北海道農研 北海道北見農試 (2)	[一年生雑草(ジ科、アカザ科、アブラナ科を除く)] ・定植後 雑草発生前 ・75, 100, 120mL<100> ・全面土壌処理 対) 慣行	実	実) [春夏作、露地;一年生雑草(ジ科、アカザ科、アブラナ科を除く)] ・定植後 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・75~120mL<100L>/10a
7. BCY-069くん蒸 メチルイソシアネート 30% [ハイエロクロップサイエンス]	ショウガ	適用性 新規	植調研究所 千葉大環境健康ファクトリー (2)	[一年生雑草] ・定植前 雑草発生前 ①被覆資材除去1日後に定植 ②被覆資材除去7日後に定植 ・26, 6, 40, 0kg ・土壌くん蒸処理 処理方法) 被覆材下にスプレーヤーを挿入(空間確保)→処理区短辺一方からノズルを挿入し薬剤を噴出	継	継) 効果、薬害の確認
8. MON-96A液 グリホサートアンモニウム塩 41% [日産化学工業]	アスパラガス	適用性 継続	北海道花・野菜セ (H19, H18秋処理;翌 春調査) (1)	[スキナ] ・生育期 スキナ生育期 ①春処理(5月下旬) ②秋処理(9月) ・2000mL<25, 50> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対) 一任	実・継	実) 従来どおり [春夏作;スキナ] ・生育期 スキナ生育期 ・畦間茎葉処理 ・2000mL<25~50L>/10a (専用ノズルを使用する) 注) ・スキナの草丈30cm以下で散布する。 ・作物に飛散しないように散布する。 継) ・北海道での秋処理における翌春効果の年次変動について
9. NC-3607ロアフル キザロップエチル 7% [日産化学工業]	ニンジン	適用性 継続	岐阜農技南濃 京都丹後 (2)	[一年生イネ科雑草(スミレ科を除く)] ・生育期 ①イネ科雑草生育期(3~5葉期) ②イネ科雑草生育期(6~8葉期) ・200, 300mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対) ナゾ乳 150mL<100>	実	実) 従来どおり [春夏作、露地;一年生イネ科雑草(スミレ科を除く)] ・生育期 イネ科雑草3~8葉期 全面茎葉処理 200~300mL<100L>/10a

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
10. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	キャベツ	薬害 継続	兵庫農技 香川農試 (2)	[薬害試験] ・ ①定植3日前 ②定植5日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 継) ・ 定植3日前処理での薬害につい て年次変動の確認
	ハクサイ	薬害 継続	福島農総 三重科学技術 <収量> 香川農試 (3)	[薬害試験] ・ ①定植3日前 ②定植5日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	レタス	薬害 継続	兵庫農技 和歌山農大 香川農試 (3)	[薬害試験] ・ ①定植3日前 ②定植5日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	ホレンソウ	薬害 継続	植調青森 長野南信試<収量> 島根農技 (3)	[薬害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実	実) 従来どおり [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	アスパラ ガス	適用性 継続	植調北海道 長野野菜花き試 福岡筑後 (3)	[スギナ] ・ 生育期 スギナ生育期 (草丈20~25cm) ・ 1500<25, 100> 2000mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) 一任	実	実) [春夏作; スギナ] ・ 生育期 スギナ生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 1500~2000mL <25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 注) ・ スギナの草丈30cm以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。
	ネギ	薬害 継続	石川植防 島根農技 鹿児島大隅 (3)	[薬害試験] ・ ①定植3日前 ②定植5日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
NC-622液	サイン	適用性 継続	岩手農研南部 植調研究所 鹿児島農総セ (3)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 250mL<25>	継	継) 効果、葉害の確認
	ダイ	葉害 継続	埼玉鶴ヶ島 岐阜農枝 (2)	[葉害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実	実) 従来どおり [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	ニン	葉害 継続	新潟農総園研 岐阜農枝南濃 京都丹後 (3)	[葉害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実 継	実) 従来どおり ・ [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) 全面茎葉処理 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 継) ・ 砂土での葉害について
	サト	適用性 新規	新潟農総園研 三重科学技術セ 宮崎畑園 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または植付前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 250mL<25>	継	継) 効果、葉害の確認
		葉害 新規	新潟農総園研 宮崎畑園 (2)	[葉害試験] ・ 定植直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
ヤマ	サト	適用性 継続	三重科学技術セ (1)	[一年生雑草] ・ 耕起または植付前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 250mL<25>	継	継) 効果、葉害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
11. NH-007フロアブル ピラフルフェンエチル 0.16%、 グリホサートイソプロピルアミン 塩 30% [日本農業]	ネギ	適用性 継続	石川植防 植調研究所 栃木農試黒磯 <収量> 鳥取園試弓浜砂丘 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 400, 500, 600mL<100> ・ 全面茎葉処理 対) 三共の草枯らし 500mL<100>	実 ・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 400~600mL<100L>/10a 継) ・ 定植直前処理での薬害について 年次変動の確認
	ネギ	薬害 新規	石川植防 植調研究所 (2)	[薬害試験] ・ ①定植前日 ②定植3日前 ・ 600, 1200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
12. NP-55乳 セトキシム 20% [日本曹達]	カリフラワー	適用性 継続	和歌山農試<収量> (1)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを 除く)] ・ 生育期 イネ科雑草生育期 (3~5葉期) ・ 150mL<100, 150> 200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) 効果、薬害の確認
	カリフラワー	薬害 継続	和歌山農試<収量> (1)	[倍量薬害試験] ・ 生育期 ・ 400mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ホウチャ	作用性 新規	北海道花・野菜 北海道道南農試 (2)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを 除く)] ・ 生育期 イネ科雑草生育期 (3~5葉期) ・ 150, 200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) 効果、薬害の確認
	ホウチャ	適用性 新規	植調北海道 (1)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを 除く)] ・ 生育期 イネ科雑草生育期 (3~5葉期) ・ 150, 200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ホウチャ	適用性 新規	植調研究所 千葉大環境健康ファ クト (2)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを 除く)] ・ 生育期 イネ科雑草生育期 (3~5葉期) ・ 150mL<100, 150> 200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ホウチャ	適用性 新規	植調研究所 千葉大環境健康ファ クト (2)	[一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを 除く)] ・ 生育期 イネ科雑草生育期 (3~5葉期) ・ 150mL<100, 150> 200mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
NP-55乳	ホトチャ	薬害 新規	北海道花・野菜 北海道道南農試 (2)	[倍量薬害試験] ・生育期 ・400mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要		
13. SYJ-100乳 プロスルカルブ 78.4% [シンジェン ジャパン]	ニンジン	適用性 新規	北海道花・野菜 植調北海道 植調青森 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草] ・播種後(出芽前) 雑草発生前 ・400, 500mL<100> ・全面土壌処理 ・展着剤不要 対) ゴーゴ-サ乳 300mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
14. SYJ-171液 ハラコート 12.4% [シンジェン ジャパン]	レタス	適用性 継続	植調青森 <宮城園研> 愛知農総試 福岡豊前 (4)	[一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対) プリグ ロックス液 600mL<100>	実	実) [春夏作;一年生雑草] ・耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・500~1000mL<100~150L>/10a
	レタス	薬害 継続	和歌山農試(農業大 学校)<収量> (1)	[薬害試験] ・定植直前 ・1000, 2000mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要		
	レタス	適用性 継続	植調青森 <宮城園研> 植調研究所 福岡豊前 (4)	[一年生雑草] ・生育期 雑草生育期 ・500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・畦間茎葉処理 ・展着剤不要 対) プリグ ロックス液剤600mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
	ホレンソウ	適用性 継続	新潟農総園研 植調研究所 島根農技 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草] ・耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要 対) プリグ ロックス液 600mL<100>	実	実) [春夏作;一年生雑草] ・耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・500~1000mL<100~150L>/10a
	ホレンソウ	薬害 継続	島根農技 (1)	[薬害試験] ・播種直前 ・1000, 2000mL<100> ・全面茎葉処理 ・展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
SYJ-171液	おレンカ	適用性 継続	長野野菜花き試 <収量> 島根農枝 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) フリガ ロックスL液剤600mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
	ネギ	適用性 継続	石川植防 植調研究所 栃木農試黒磯 <収量> 奈良農総試 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) フリガ ロックスL液 600mL<100>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 500~1000mL<100~150L>/10a [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 500~1000mL <100~150>/10a 注) ・ 雑草の草丈30cm以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。
	ネギ	薬害 継続	植調研究所 奈良農総試 (2)	[薬害試験] ・ 定植直前 ・ 1000, 2000mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	スイカ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) フリガ ロックスL液 600mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
	スイカ	薬害 新規	石川砂丘地 鳥取園試 (2)	[薬害試験] ・ 定植直前 ・ 1000, 2000mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	スイカ	適用性 新規	植調研究所 長野野菜花き試 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 500mL<100, 150>, 1000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) フリガ ロックスL液600mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬 剤・名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
15. TMZ-9911液 ヨウ化ナトリウム 99% [アリス ライフサイエンス]	ヨウカ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対) クロビ' クリン液 30L (3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去 →7日後を目安に耕起 (3日間放置)→定植	継	継) 効果、薬害の確認
	ヨウカ	適用性 新規	植調研究所 千葉大環境健康ファクトリー (2)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対) クロビ' クリン液 30L (3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去 →7日後を目安に耕起 (3日間放置)→定植	継	継) 効果、薬害の確認
16. YF-65L液 ジクワット 7%, バ' ラコート 5% [シンジエンタ ジャパン]	タノコ	適用性 新規	植調研究所 植調埼玉 (2)	[雑草全般] ・ タノコ収穫後 雑草生育期 (夏期) 草丈30cm以下 ・ 1000mL<100, 150> ・ 2000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) 効果、薬害の確認
	タノコ	薬害 新規	植調研究所 植調埼玉 (2)	[倍量薬害試験] ・ タノコ発生前 ・ 2000, 4000mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
17. ZK-122液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジエンタ ジャパン]	キャベ'ツ	適用性 新規	宮城園研 新潟農総園研 植調研究所 兵庫農技センター 和歌山農大 南九州大学<収量> (6)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> ・ 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンド' アップ' ハイロード' 液250mL<50>	継	継) 効果、薬害の確認
	キャベ'ツ	薬害 新規	新潟農総園研 兵庫農技センター (2)	[薬害試験] ・ 定植3日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
ZK-122液	レタス	適用性 継続	植調青森 植調研究所 長野野菜花き試 福岡豊前 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> ・ 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液250mL<50>	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	レタス	薬害 継続	植調青森 福岡豊前 (2)	[薬害試験] ・ 定植3日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ホレンソウ	適用性 継続	植調青森 植調岩手 岩手農研南部 植調研究所 島根農技 (5)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> ・ 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液250mL<50>	実・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 継) 年次変動の確認
	ホレンソウ	薬害 継続	島根農技 (1)	[薬害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	タマネギ	適用性 継続	北海道農研 北海道北見農試 植調北海道 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 250mL<50, 100> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) 一任	実	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 注) ・ 雑草の草丈30cm以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。
	ネギ	適用性 継続	石川植防 植調研究所 鳥取園試弓浜砂丘 島根農技 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> ・ 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液250mL<50>	実・ 継	実) [春夏作; 一年生雑草] ・ 耕起または定植3日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 継) 定植前処理での薬害について 年次変動の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草: ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
ZK-122液	ネギ	薬害 継続	石川植防 岐阜農技 (2)	[薬害試験] ・ 定植3日前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ネギ	適用性 継続	奈良農総 島根農技 福岡農総試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 250mL<25, 50, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) 一任	実	実) [春夏作: 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 注) ・ 雑草の草丈30cm以下で散布する。 ・ 作物に飛散ないように散布する。
	ダイコン	適用性 継続	北海道道南農試 植調北海道 (2)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50> 500mL<25, 50> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 液剤 250mL<50>	実	実) [春夏作: 一年生雑草] ・ 耕起または播種8日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 継) ・ 播種前処理での薬害について
	ダイコン	適用性 継続	植調青森 岩手農研南部 植調研究所 (3)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 250mL<50, 100> 500mL<100> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 液剤 250mL<100>		
	ニンジン	適用性 継続	植調青森 新潟高冷地 京都丹後 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 液250mL<50>	実	実) [春夏作: 一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用)
	ニンジン	薬害 継続	新潟高冷地 (1)	[薬害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 < >は試験中など (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは新たに判定した部分
ZK-122液	ヤマ/イ	適用性 継続	青森畑園試<収量> 新潟植防 三重科学技術< <収量> (3)	[一年生雑草] ・ 耕起または植付前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100> ・ 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要 (対) ラウンドアップハイロード 液250mL<50>	継(継)	・ 効果、薬害の確認
	ヤマ/イ	薬害 継続	青森畑園試<収量> 三重科学技術 (2)	[薬害試験] ・ 植付直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要		
18. トリフルアリン乳 トリフルアリン 44.5% [ダウ・ケミカル日本]	ネギ	適用性 継続	奈良農総< 福岡農総試 (2)	[一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、 セリ科、アブラ科を除く)] ・ 培土後 雑草発生前 ・ 200, 300mL<100> ・ 全面土壌処理	実(実)	[春夏作、露地; 一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、セリ科、アブラ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 200~300mL<100L>/10a [春夏作、露地; 一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、セリ科、アブラ科を除く)] ・ 生育期、培土後 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 200~300mL<100L>/10a
19. トリフルアリン粒 トリフルアリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	ネギ	適用性 継続	北海道上川農試 北海道道南農試 植調研究所 奈良農総< 福岡農総試 (5)	[一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、 セリ科、アブラ科を除く)] ・ 培土後 雑草発生前 ・ 4.5kg ・ 全面土壌処理	実(実)	[春夏作、露地; 一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、セリ科、アブラ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 4~5kg/10a [春夏作、露地; 一年生雑草(ツクサ科、ハツリグサ科、セリ科、アブラ科を除く)] ・ 生育期、培土後 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 4~5kg/10a

B. 平成18年度秋冬作分 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. AKD-7164水和 シアナジン 50% [アグロネーション]	ネギ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草(ツクサ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前~始期 ・ 70, 100, 150g<100> ・ 全面土壌処理	—	・ 前回の判定どおり

B. 平成18年度秋冬作分 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
2. SYJ-100乳 プロシメカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	タマねぎ	適用性 継続	植調青森(春処理) (1)	[一年生雑草] ・ 春期 雑草発生前～始期 (定植後土壌処理剤との体系処理) ・ 全面土壌処理 ・ 400, 500mL<100> ・ 展着剤不要 対) ゴーゴーサン乳剤 春期全面土壌処理(雑草発生前～始期) 300mL<100>	—	・ 前回の判定どおり
3. SYJ-171液 ハコート 12.4% [シンジエンタ ジャパン]	ねぎ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ 耕起前または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 500mL<100, 150> 1000mL<100> ・ 展着剤不要 対) プリグロックス 600mL<100>	—	・ 前回の判定どおり
	ねぎ	薬害 新規	植調研究所 (1)	[薬害試験] ・ 定植直前 ・ 全面茎葉処理 ・ 1000, 2000mL<100> ・ 展着剤不要	—	・ 前回の判定どおり
	ねぎ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ ねぎ生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 500mL<100, 150> 1000mL<100> ・ 展着剤不要 ・ 対) プリグロックス 600mL<100>	—	・ 前回の判定どおり
4. ZK-122液 グリサートカリウム塩 43% [シンジエンタ ジャパン]	ねぎ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ 耕起前または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250mL<25, 50> 500mL<25> ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 250mL<50>	—	・ 前回の判定どおり
	ねぎ	薬害 新規	植調研究所 (1)	[薬害試験] ・ 定植直前 ・ 全面茎葉処理 ・ 500, 1000mL<25> ・ 展着剤不要	—	・ 前回の判定どおり
	ねぎ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ ねぎ生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 250mL<25, 50> 500mL<25> ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 250mL<50>	—	・ 前回の判定どおり

B. 平成18年度秋冬作分 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
5. リニロン水和 リニロン 50% [デューボン]	ニンニク	適用性 新規	青森農総研 青森畑園試 (2)	[一年生雑草] ・ 植付前または前 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 100, 150g<100> 対) ゴーゴ-サン乳	一	・ 前回の判定どおり

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. AH-01液 グリンホサートP 11.5% [明治製薬、北興化学 工業]	カーネーション	適用性 新規	北海道花・野菜 長崎総農試 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150>, 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ハース液 300mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
	イチゴ	適用性 新規	北海道花・野菜 岩手農研 長野野菜花き試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150>, 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ハース液 300mL<100>	継	継) 効果、薬害の確認
2. ANK-553細粒 ベンディメタリン 2% [BASFアグロ]	サツキ	適用性 新規	三重科学鈴鹿 (1)	[一年生雑草 (サツキ科、ツツジを除く)] ・ 生育期 雑草発生前 ・ 4, 5, 6kg ・ 全面土壌処理 対) 慣行	継	継) 効果、薬害の確認
	ツツジ	適用性 継続	埼玉農総研森林緑化 鳥取園試 (2)	[一年生雑草 (サツキ科、ツツジを除く)] ・ 生育期 雑草発生前 ・ 4, 5, 6kg ・ 全面土壌処理 対) 慣行		
3. FUIN-2 (IBBJL-861) 粉粒 ダクメット 98% [アグロネショウ]	イチゴ	適用性 継続	長野野菜花き試 鹿児島農総研 沖縄農研 (3)	[多年生広葉、スギナ] ・ 播種または定植前 ・ 30, 60kg ・ 土壌混和処理 処理方法) 本剤散布→深さ15~25cmの土壌 と十分混和→ビニール等で被覆(7 ~14日間)→被覆除去→2回以上 耕起(ガサ抜き)→播種または定 植	継	継) 効果、薬害の確認

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
FUIN-2 (旧BJL-861) 粉粒 [委託者]	トルコキ ヨウ	適用性 継続	山形庄内産地研 栃木農試 広島農技 (3)	[多年生広葉, スギナ] ・ 播種または定植前 ・ 30, 60kg ・ 土壌混和処理 処理方法) 本剤散布→深さ15~25cmの土壌 と十分混和→ビニール等で被覆(7 ~14日間)→被覆除去→2回以上 耕起(ガス抜き)→播種または定 植		
	リンドウ	適用性 継続	山形農研農生技 茨城園研 (2)	[多年生広葉, スギナ] ・ 播種または定植前 ・ 30, 60kg ・ 土壌混和処理 処理方法) 本剤散布→深さ15~25cmの土壌 と十分混和→ビニール等で被覆(7 ~14日間)→被覆除去→2回以上 耕起(ガス抜き)→播種または定 植		
	ユリ	適用性 継続	新潟高冷地 広島農技<収量> <鹿児島農総む> (3)	[多年生広葉, スギナ] ・ 播種または定植前 ・ 30, 60kg ・ 土壌混和処理 処理方法) 本剤散布→深さ15~25cmの土壌 と十分混和→ビニール等で被覆(7 ~14日間)→被覆除去→2回以上 耕起(ガス抜き)→播種または定 植		
4. GG-152微粒 グリホサートイソプロピルアミン 塩 3%, フルミオキサジン 0.1% [日本ガーリーランド・ガー デン]	花木	適用性 継続	埼玉農総森林緑化 京都農総研 奈良農技 鳥取園試 福岡果樹苗木 (5)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 10, 15, 20kg ・ 畦間茎葉処理 対) グリホサートイソプロピルアミン塩 15kg	実 ・ 継	実) [(ツツジ, サツキ); 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 10~20kg/10a 注) ・ 雑草の草丈30cm以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。 継) ・ その他樹種への拡大
5. GL-40液 グリホサートイソプロピルアミン 塩 1.3%, MCPAイソプロピルアミン塩 0.25% [住化ケイダ 園芸]	花木	適用性 新規	埼玉農総森林緑化 三重科学鈴鹿 鳥取園試 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 20, 25, 40L ・ 畦間茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 液250mL<50>	継	継) 効果, 葉害の確認

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
6. Hoe-866液 ケルチネット 18.5% [ハニエル クロップサイエ ンス]	カーネーション	適用性 新規	＜茨城園研＞ 広島農技 鹿児島農総研 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	実 ・ 継	実) [春夏作(ケルチネット、ストック、ユリ); 一 年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 畦間茎葉処理 300～500mL <100～150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈20cm以下で散 布 する。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。 継) ・ カーネーションでの効果、薬害の確認
	カーネーション	薬害 新規	広島農技 鹿児島農総研 (2)	[倍量薬害試験] ・ 生育期 ・ 500, 1000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ストック	適用性 継続	千葉暖地園研 広島農技 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ストック	薬害 継続	広島農技<収量> (1)	[倍量薬害試験] ・ 生育期 ・ 500, 1000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ユリ	適用性 継続	新潟農総園研 広島農技<収量> 鹿児島農総研 (3)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150> 500mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ユリ	薬害 継続	広島農技 鹿児島農総研 (2)	[倍量薬害試験] ・ 生育期 ・ 500, 1000mL<100> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
7. MRS-199液 ケルチネットプロピルアミン 塩 1% [ニューファム]	花木	適用性 新規	山形農研農生技 埼玉農総森林緑化 三重科学鈴鹿 鳥取園試 (4)	[雑草全般] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 25, 40L ・ 畦間茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード 液250mL<50>	継	継) 効果、薬害の確認

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
8. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	花木	適用性 継続	埼玉農総森林緑化 (1)	[雑草全般 (スギナを除く)] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液250mL<25>	実 ・ 継	実) [(ツツジ, ササキ); 一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 200~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 注) ・ 雑草の草丈30cm以下で散布する。 ・ 作物に飛散しないように散布する。 継) ・ その他樹種への拡大 ・ 多年生雑草への効果の確認
9. TMZ-9911液 30%化剤 99% [アリス ライフサイエンス]	カーネーション	適用性 継続	茨城園研<収量> 広島農技<収量> (2)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対) カルビクリン液 30L (3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起→3日間放置 →定植	実 ・ 継	実) [春夏作 (サトウ, カネーシオン); 一年生 雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 土壌くん蒸処理 ・ 20kg 注) 薬剤容器を被覆資材下に設置 し燻蒸処理後3日間密閉、放置す る。処理4日後に被覆除去し、除去 後7日後を目安に耕起する。耕起4 日後に定植する 継) ・ 15kg処理での効果の確認 (サトウ, カ ネーシオン)
	サトウ	適用性 継続	長野野菜花き試 沖縄農研 (2)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対) カルビクリン液 30L (3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起→3日間放置 →定植		

D. 野菜関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
1. AKD-8151 (L) 液 1-ナフタレン酢酸ナトリウム 0.2% [アグロカネショウ]	メロン	適用性 継続	千葉暖地園研 静岡農試 (2)	[果実肥大及びネット形成促進] (1回処理) ・縦ネット発生期～横ネット発生期 ・1000, 2000倍<100-200mL/株> ・株散布 (反復処理;2回) ・縦ネット発生期→横ネット発生期 ・1000倍→1000倍 ・<100～200mL/株> ・株散布 対) 一任	実	実) 従来どおり [果実肥大及びネット形成促進] ・縦ネット発生期～横ネット発生期 株散布 1000～2000 倍 ・<100～200mL/株> 2 回以内
2. T-2000S粒 シュート・モナス フルオレセンス FPT-9601 10 ⁷ cfu/g [多木化学]	キャベツ	適用性 継続	長野野菜花き試 く南九州大学> (2)	[育苗期の伸長抑制] ・播種時 ・600mL/128穴トレイ ・覆土として使用	継	継) 効果、薬害の確認
	レタス	適用性 継続	植調研究所 長野野菜花き試 和歌山農大<収量> (3)	[育苗期の伸長抑制] ・播種時 ・600mL/200穴トレイ ・覆土として使用	継	継) 効果、薬害の確認
3. ジ・ベ・リン水溶 ジ・ベ・リン 3.1% [日本ジ・ベ・リン研究会]	イチゴ	適用性 新規	栃木農試栃木 奈良農総セ 山口農試 佐賀農研セ 長崎総農試 熊本農研セ 宮崎総農試 (H18, 19) (8)	[ランナー発生促進、大苗化促進] ・採苗時ランナー発生直前 ～発生初期 ・50ppm ・茎葉処理 (10mL/株)	実 ・ 継	実) [ランナー発生促進] ・採苗時ランナー発生直前 ～発生初期 ・茎葉処理 ・50ppm (10mL/株) ・効果の確認された品種; とちおとめ、さちのか、山口ST9 号、さがほのか、とよのか 継) ・大苗化促進効果について

E. 平成18年度秋冬作分 野菜関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
1. NSH-1液 シタケ菌糸体抽出物 1% [野田食菌工業]	ニンニク	適用性 継続	青森畑園試 (1)	[品質向上 (肥大促進)] ・鱗片分化期 1 週間後から7日お き3回散布 ・鱗片分化期 2 週間後から7日お き3回散布 ・300倍×3回<100, 200> ・葉面散布 ・展着剤を加用する 対) サンキャッチ液剤 鱗片分化期 3 週 間後 300倍 1回散布	一	・前回の判定どおり

E. 平成18年度秋冬作分 野菜関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
2. ジベレリン水溶 ジベレリン 3.1% [日本ジベレリン研究 会]	トマト	適用性 新規	青森農総砂丘研 (1)	[着果促進] ・ 開花前日～翌日 ・ ジベレリン200ppm+トマト>50倍, トマト>50倍 ・ 花または子房部に1回散布 ・ 無処理区は人工交配区	実	実) [春夏作; 着果促進] ・ 開花前日～翌日 ジベレリン200ppm+4-CPA50倍 花または子房部に散布

F. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. JFR-010水溶 ジベレリン 5% [丸和ハイ]	イチゴ	適用性 新規	鹿児島農総 沖縄農研 (2)	[草丈伸長促進] ・ 生育期 ・ ①1000倍 (GA50ppm) 1回 ②1000倍 (GA50ppm) 2回 (散布間隔7～10日) ③500倍 (GA100ppm) 1回 ④500倍 (GA100ppm) 2回 (散布間隔7～10日) ・ 茎葉処理 対) ジベレリン粉末または液剤 生育期 50-100ppm (2回散布)	継	継) 効果、薬害の確認
2. NPK-063粒 (旧EL-500粒) フルルグリミドール 1% [日本農業]	アザミ	適用性 継続	千葉農総研 東京農総研 (2)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理	実・継	実) [(カイズカイブキ、ヒバ、イヌヅナ、イヌマキ、 ツツジ、ヘビカサネモチ); 新梢伸長抑 制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 土壌混和处理 ・ 10～30kg/10a 継) ・ その他の樹種での効果、薬害の確 認
	ウハメカシ	適用性 継続	東京農総研 (1)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理		
	カサネモチ	適用性 継続	東京農総研 三重科学鈴鹿 (2)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理		
	トウネズミ モチ	適用性 継続	東京農総研 (1)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理		
	マサキ	適用性 継続	埼玉農総研 東京農総研 (2)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開 始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理		

F. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
3. YS-071液 既知化合物 [ヤマ産業]	サト	作用性 新規	長野野菜花き試 福岡農総試 鹿児島農総試 (3)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ ①定植直後 (定植後3日程度) ・ ②生育期 ・ 1本/株 (33mLアンプル) (1) 0.0010%, (2) 0.0016%, (3) 0.0025% ・ アンプルを土壤に挿入 対) スミチンP液 1mL<50~100mL> 土壤灌注	—	
	ペチュニア	作用性 新規	<山形置賜産地研> 神奈川農技 長野野菜花き試 (3)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ ①定植直後 (定植後3日程度) ・ ②生育期 ・ 1本/株 (33mLアンプル) (1) 0.0010%, (2) 0.0016%, (3) 0.0025% ・ アンプルを土壤に挿入 対) スミチンP液 1mL<50~100mL> 土壤灌注	—	
4. ダミノジッド 水溶 ダミノジッド 80% [日本曹達]	ジャカガ	適用性 継続	埼玉農総森林緑化 <中間> 福岡果樹苗木 <中間> (2)	[矮化効果及び花芽着生数増加] ・ 新梢伸長完了期を1回目として 3回処理 (1ヶ月間隔) 75倍→75倍→75倍 100倍→100倍→100倍 <100mL/5号鉢> ・ 茎葉処理	保 留	(中間データのため)
5. ダミノジッド スプレー 液 ダミノジッド 0.4% [日本曹達]	アザミ	適用性 新規	<新潟農総園研> <福岡果樹苗木> (2)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ 摘芯後 7~30日 (1回) ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 摘芯後 7~30 日 150~200倍 茎葉処理	保 留	(試験中のため)
	サト (大輪 ぎく)	適用性 新規	愛知東三河 岐阜農技 <広島農技> 福岡農総試 (4)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ ①摘芯10日後 または定植3日目 (計1回) ②摘芯10日後または定植3日目 →1回目の30日後 (計2回) ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 摘芯10日後また は定植3日目及びその後30日間隔 1~2回200~400倍、茎葉処理	継 続	継) 効果、葉害の確認

F. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ダミゾットスプレー液	サトウ (小中 輪ぎ く)	適用性 新規	愛知東三河 岐阜農技 広島農技 鹿児島農総試 (4)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ ①摘芯7日後 (計1回) ・ ②発蕾初期 (計1回) ・ ③摘芯7日後 →発蕾初期 (計2回) ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 ①摘芯7日後 (計1回) ②発蕾初期 (計1回) ③摘芯7日後→発蕾初期 (計2回) 200-400倍 茎葉処理	継	継) 効果、葉害の確認
	ハイラン ジア (アジサイ)	適用性 新規	茨城園研 <栃木農試> 東京農総研 福岡農総試 (4)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ 定植3日後 (1回) →定植30日後 (1回) (計2回) ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 定植3日後および定植30日後 100-200倍 茎葉処理	継	継) 効果、葉害の確認
	ハブタン	適用性 新規	山形置賜産地研 兵庫農技 <奈良農技> 広島農技 (4)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ 定植3日目 (1回) ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 定植3日目 100-200倍 茎葉処理	継	継) 効果、葉害の確認
	ベチニア	適用性 新規	山形置賜産地研 神奈川農技 兵庫農技 奈良農技 (4)	[茎葉の伸長抑制による小型化] ・ 定植後2週間目 (摘芯7日後) 1回 ・ 茎葉処理; 十分量 (希釈せずそのまま散布) 対) ビーサイン水溶 定植後2週間目 (摘芯7日後) 100-200倍 茎葉 処理	継	継) 効果、葉害の確認
6. ジベリン液 ジベリン 3.1% [日本ジベリン研究会]	サトウ	適用性 継続	愛知東三河 (1)	[開花促進、草丈伸長促進] (1回処理) ・ 生育期 ・ 25, 50ppm<80> ・ 茎葉処理 (反復処理; 2回 (1週間間隔)) ・ 生育期 ・ 25ppm<80>→25ppm<80> 50ppm<80>→50ppm<80> ・ 茎葉処理 注) 40株/区以上	実	実) 従来どおり [サ; 開花促進、草丈伸長促進] ・ 生育期 茎葉処理 (十分量) 25~100ppm (2回以内)

平成19年度草地飼料作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度草地飼料作関係除草剤・生育調節剤試験成績
討会は、平成19年1月17日(木)に植調会館において開催さ
れた。

この検討会には、試験場関係者13名、委託関係者10名

ほか、計40名の参集を得て、除草剤4薬剤(43点)につい
て、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に
示す通りである。

平成19年度 草地飼料作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
1. AK-01液 グリホサートイソP・ピルミン 塩 41% [TAC普及会]	草地更 新	適用性 継続	北海道畜試滝川 北海道上川天北 (2) 栃木酪農 (H18) 熊本草地畜産研 (H18)	[雑草全般] ・播種10日前 雑草生育期 ・250, 500mL<50> ・茎葉処理 ・展着剤不要 対) ラウンドアップ液 250mL<50>	実	実) [草地更新; 雑草全般] ・耕起10日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 雑草全般対象: 250~500mL/10a <50L/10a(専用ノズル使用)> ギン ギン等の難防除雑草対象: 500 ~1000mL/10a <50L/10a(専用ノズル使用)> 茎 葉処理
	草地更 新	適用性 継続	北海道畜試滝川 北海道上川天北 熊本草地畜産研 <収量> 大分畜試<収量> (4) 栃木酪農 (H18) 熊本草地畜産研 (H18)	[雑草全般] ・播種当日(播種直前) 雑草生育期 ・250, 500mL<50> ・茎葉処理 ・展着剤不要 対) ラウンドアップ液 250mL<50>		・播種前(播種当日まで) 雑草生育期(草丈30cm以下) 250~500mL/10a <50L/10a(専用ノズル使用)> 茎葉処理
	草地更 新	薬害 継続	栃木酪農<収量> (1) 栃木酪農 (H18) 熊本草地畜産研 (H18)	[薬害試験] ・播種当日(播種直前) ・500, 1000mL<50> ・茎葉処理 ・展着剤不要		
2. DPX-16顆粒水和 チフェンスルフロメタル 75% [デューボ]	草地更 新	適用性 継続	北海道畜試(含H18) 北海道根拠農試(含H18) 大分畜試<収量> <鹿児島畜試> (4) 大分畜試 (H18)	[ギンギン] ・牧草定着時 ギンギン生育初期(実生) ・0.5, 1.2g<100> ・茎葉処理(全面散布) 対) アシェラム 200-300mL<100>	維	維) 効果、薬害の確認(H18) (H19は判定保留)
3. NC-622液 グリホサートカウム塩 48% [日産化学工業]	草地更 新	適用性 継続	北海道畜試 北海道上川天北 (2)	[雑草全般] ・耕起10日以前 雑草生育期 ・200, 300mL<25> ・茎葉処理 ・展着剤不要 対) ラウンドアップ液 500mL<25>	実・ 維	実) [草地更新; 雑草全般(ギンギン を含む)] ・耕起前 雑草生育期(草丈30cm以下) 茎葉処理 200~500mL/10a <25~50L/10a(専用ノズル使用)>
	草地更 新	適用性 継続	北海道畜試 北海道上川天北 (2)	[ギンギン] ・耕起10日以前 雑草生育期 ・300, 500mL<25> ・茎葉処理 ・展着剤不要 対) ラウンドアップ液 500mL<25>	維)	・水量25Lでの年次変動の確認(北 海道)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作 物 名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
NC-622液	草地更新	作用性 新規	植調十勝<収量> (1) (植調十勝 参考ラウンドアップ液<収量>)	[ラウンドアップ・グー]・ ・ 耕起10日以前 雑草生育期 春期及び夏期 ・ 500, 1000mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 500mL<50>		
	草地更新	適用性 継続 (H18)	栃木酪農 熊本草地畜産研 大分畜試 鹿児島畜試 (4)	[雑草全般] ・ 耕起前 雑草生育期 ・ 200mL<25, 50>、 500mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤は使用しない 対) ラウンドアップ 液 250mL<50>		
	草地更新	適用性 継続	植調岩手 新潟畜産研 栃木酪農<収量> 熊本草地畜産研 <収量> 大分畜試<収量> 鹿児島畜試<収量> (6)	[雑草全般 (ギンショ)] ・ 耕起前日 雑草生育期 ・ 200mL<25, 50>、 500mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 500mL<50>		
	草地更新	薬害 新規 (H18)	大分畜試 (1)	[薬害試験] ・ 耕起直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤は使用しない		
	草地更新	適用性 新規	北海道根釧農試 北海道上川天北 (2)	[雑草全般] ・ 播種10日前 雑草生育期 ・ 200, 300, 400mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 250mL<50>		実) [草地更新; 雑草全般] ・ 播種前(播種当日まで) 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 茎葉処理 200~500mL/10a <25~50L/10a (専用ノズル使用)>
	草地更新	適用性 新規	北海道根釧農試 北海道上川天北 (2)	[雑草全般] ・ 播種当日 雑草生育期 ・ 200, 300, 400mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 250mL<50>		継) ・ 年次変動の確認 (北海道)
	草地更新	適用性 継続	植調岩手 新潟畜産研 栃木酪農<収量> 熊本草地畜産研 <収量> 大分畜試<収量> 鹿児島畜試<収量> (6) 鹿児島畜試 (H18)	[雑草全般] ・ 播種当日 雑草生育期 ・ 200mL<25, 50>、500mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 ・ 対) ラウンドアップ 液 250mL<50>		
	草地更新	薬害 継続	新潟畜産研 熊本草地畜産研 <収量> (2)	[薬害試験] ・ 播種当日 雑草生育期 ・ 500, 1000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; わらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
4. ZK-122液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジェンタ ジャパン]	ソルガム	適用性 継続	長野畜試 大分畜試 宮崎畜試 (H18)	(2) [一年生雑草] ・ 耕起または播種前 雑草生育期 ・ 250mL<25, 50> 500mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤は加用しない 対) 一任 備考) ・ 雑草調査は、耕起前処理、播種前 処理ともに効果完成時の実施を 希望 ・ 専用ノズルを使用する	継	継) 効果、薬害の確認
	ソルガム	薬害 新規 (H18)	宮崎畜試	(1) [薬害試験] ・ 播種直前 ・ 500, 1000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	草地更 新	作用性 新規	植調十勝<収量> (1)	[リードキャスターグラス] ・ 更新・造成10日以前および 2番草刈取後(夏以降) ・ 500, 750mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要	—	(作用性)



石原の除草剤

水稲用 除草剤

●水田初期除草剤/抵抗性ホタルイ防除に!

ワンベスト®フロアブル

●水田初期一発処理除草剤/コンパクトでビッグな手応え

ワンオールS1キロ粒剤

野菜、畑作、 果樹用除草剤

●イネ科雑草専用除草剤/確かな選択、しっかり除草

ワンサイドP乳剤

芝生用除草剤

●芝生用除草剤/少量散布で大きな効果

シバゲン®水和剤

●水田後期除草剤/難防除多年生雑草に

グラスビーンM®ナトリウム剤

●安心、実績の水田後期除草剤

2,4-D剤/MCP剤

●飼料用とうもろこし専用除草剤/雑草見てから除草

ワンホープ®乳剤

製造 石原産業株式会社

販売 石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番30号

ホームページ アドレス <http://www.iskweb.co.jp/ibj/>

植物雑考

ジャガイモは有毒植物？

全国農村教育協会 廣田伸七

春は山菜の季節である。特に雪国では雪が消えるのを待っていたかのように草や木が一斉に芽生えて来る。ゼンマイ、ワラビ、フキからギボウシ、セリ、モミジガサなどが春の香りと味を全草に貯えて出現する。厳しい冬をじっと耐えてきた人々は喜々として山野に山菜採りに出掛ける。すると決まって新聞やテレビのニュースに報じられるのが有毒植物による中毒事故である。

少し古い資料で恐縮だが、1964年～1990年の27年間に日本で発生した有毒植物による食中毒例から拾ってみるとチョウセンアサガオ類によるものが32件、誤食した人が150人、中毒を起こした患者が126人。モミジガサやヨモギと間違えてトリカブト類を食べた件数は23件、誤食した人は82人、中毒患者が63人で死者が6人。ギボウシ類と間違えてバイケイソウ類を誤食した件数は16件、誤食した人81人、中毒患者が59人という統計がある。

ところでこの統計の中で目を引くのがジャガイモによる食中毒事例である。ジャガイモが有毒植物として食中毒を起こした件数は5件、誤食した人は1,181人、中毒患者数が389人と圧倒的に多い数字である。私達が日常普通に食べているジャガイモが何故有毒植物として扱われるのかと疑問に思われる人が多いと思うが、実は春先のジャガイモには思わぬ落とし穴がある。前年に収穫したジャガイモが冬を越し、春先になるとところどころ芽を出し、また表皮が緑色に変化してくる。この芽の部分と緑色の表皮の部分にソラニン（アルカロイド）という有毒物質が多量に含まれるようになる。従って芽の出たジャガイモの芽や表皮が



▲芽を出したジャガイモ

緑色に変化したものを食べるとおう吐、下痢、腹痛、脱力感、めまい、呼吸困難などの症状を起こすのである。この芽や緑色の皮に含まれているソラニンは煮る、焼くなどの加熱調理してもほとんど分解されないので中毒症状が起こる訳である。これがジャガイモが有毒植物という理由である。昨年収穫されたジャガイモは今頃は必ず芽が出始めていたり、表皮が緑色に変化したものが多い筈である。従って、これらのイモを料理するときは芽の部分や緑色になった表皮の部分は完全に除去するなどして十分注意することが大切である。

余話：ジャガイモは1598年（慶長3年）にオランダ船がインドネシアのジャコラ（現ジャカルタ）から日本に持って来たのでジャガタライモと呼ばれたが、それが略されてジャガイモと名付けられた。ジャガイモのことを馬鈴薯と書いているが改訂増補牧野新日本植物図鑑（北隆館）ではこれは全く別の植物であると記してある。さらに牧野富太郎博士が1953年「隨筆・植物一日一題」と題して東洋書館より出版した本の中でジャガイモに馬鈴薯の文字をあててバレイショと呼んでいるがこれは大きな間違いで、中国で馬鈴薯の文字を使っている植物はジャガイモとは全く別の植物であって、ジャガイモは断じて馬鈴薯ではない。1808年文化5年に小野蘭山という本草学者がジャガタライモを馬鈴薯であるといったのが始まりで、これが現代まで誰も否定する者がいなかったので定着してしまったが、これは大きな間違いでおろかな話であって日本文の恥辱である。ジャガイモは断じて馬鈴薯ではないと書いている。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 廣田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成20年3月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第41巻第12号

(送料270円)

印刷所 (株)ネットワン

R100
登録商標 100%再生紙を使用しています

難防除雑草対策の新製品

イッテツ フロアブル
1#0粒剤 ジャンボ

期待の新製品

SU抵抗性雑草対応・
田植同時処理にも対応

ドニチS1#0粒剤 / ヨシキタ1#0粒剤

殺虫成分入り

(スクミリンゴガイ食害防止)

ショウリョク ジャンボ

2成分の

ジャンボ剤

ゴヨウダ ジャンボ

大好評の既存剤

ポーンと
手軽に

クラッシュEX ジャンボ

安定した効果の
初中期一発剤

ドニチ1#0粒剤

アピロイグル フロアブル

アワード フロアブル

キックバイ1 キロ粒剤

草闘力 ふろあぶる

クラッシュ1#0粒剤

シェリフ1#0粒剤

シゼット フロアブル

バトル 粒剤

ロンゲット フロアブル

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

 **住友化学**

住友化学株式会社

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト i-農力 <http://www.i-nouryoku.com>

DU PONT The miracles of science™

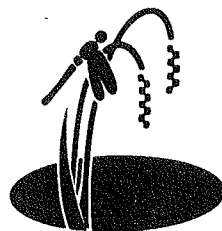
米国生まれ、 米の国育ち、DPX-84

1987年に上市したベンスルフロンメチル(DPX-84)は、

- 抵抗性雑草対策場面でも
- 田植え同時でも
- 直播栽培でも

多様な剤型で、これからも日本の
水田除草をお手伝いします。

®は米国デュポン社の登録商標です。



上記マークがついている除草剤
にはDPX-84が含まれています。

デュポン株式会社 農業製品事業部 〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1

やっかいな雑草からしっかりガード!

3つの剤型で様々なニーズに適合します。

特長

- 1 難防除雑草を含む広範囲の雑草に優れた効果
- 2 スルホニルウレア抵抗性のホタルイ類に対して高い効果
- 3 畦畔からの侵入雑草にも効果が優れます。

新発売

水稲用 初・中期一発処理除草剤

テラガード®

250グラム・L250グラム(豆つぶ剤)
 フロアブル・Lフロアブル
 1キロ粒剤75・1キロ粒剤51

®・クミアイ化学工業(株)の登録商標

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 防除日誌を記録しましょう。



JAグループ

農協

全農

経済連

自然に学び 自然を守る

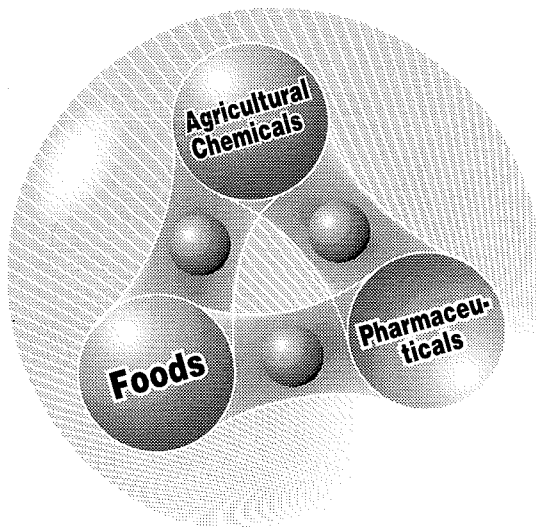
クミアイ化学工業株式会社

本社：東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL.03-3822-5036
<http://www.kumiai-chem.co.jp>

いのちの輝きを見つめる

Meiji

私たちは、夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、
 世界の人々の心豊かな暮らしに、貢献します。



天然物で確実除草

ハービー®液剤



明治製薬株式会社

104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<http://www.meiji.co.jp/nouyaku>